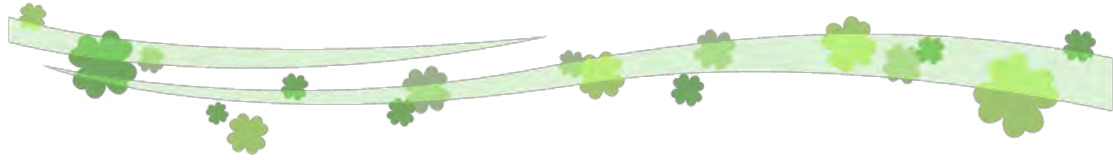


「共に学び、共に育つ教育」の充実を目指して

豊かなスポーツライフ ガイドブック



岩手県立総合教育センター
教育支援相談担当

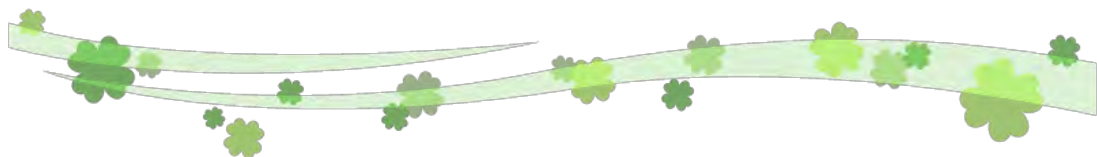


はじめに

東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおいては、「多様性と調和」がビジョンの一つとして掲げられ、世界中の人々が多様性と調和の重要性を改めて認識し、共生社会をはぐくむ契機となるような大会を目指しています。共生社会の形成については、平成 24 年、中央教育審議会初等中等教育分科会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告」により、「共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため、特別支援教育を着実に進めていく必要があると考える。」と特別支援教育の重要性が示されました。

本県においても、多くの学校で、通常の学級と特別支援学級の交流及び共同学習として体育の授業を実施しています。しかし、障がいのある児童生徒が学習を行う場合に生じる困難さは多様であり、一人一人の能力等に応じた適切な学習を提供することは容易なことではありません。安全面を考慮するあまり、学習内容を本人の意向に沿わないものに変更したり、学習活動を代替したりしてしまうことが考えられます。

本ガイドブックは、学習指導要領に示されている児童生徒の様々な「困難さ」と、その困難さに対して体育の学習を行う際に考えられる支援の例を示しました。また、小学校において、困難さのある児童と通常の学校の児童と一緒に体育の授業を行う際に、どのように授業づくりを行っていくかの一例を示しています。子どもたち一人一人がスポーツを通じて関わり、互いを尊重し、心豊かに主体的に生活することができる共生社会の実現の一助となることを期待します。



目 次

第Ⅰ章 「共に学び、共に育つ」ために

1 「豊かなスポーツライフ」の実現のために	1
【ピックアップ】 在校種別体育への参加状況	3
2 困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫	4
(1) 見えにくさ	5
(2) 聞こえにくさ	6
【ピックアップ】 デフリンピックについて	7
(3) 道具の操作の困難さ	8
(4) 移動上の制約	9
(5) 健康面や安全面での制約	11
(6) 発音のしにくさ	12
(7) 心理的な不安定、人間関係形成の困難さ	13
(8) 読み書きや計算等の困難さ	14
(9) 注意の集中を持続することの苦手さ	15
【ピックアップ】 パラリンピックスポーツの体験のススメ	16

第Ⅱ章 授業づくりガイド【小学校体育科（運動領域）】

1 合理的配慮	17
2 基礎的環境整備	17
3 自立活動	19
4 授業づくりの流れ	20
(1) 全員への支援のための、学級の実態把握	20
(2) 個に応じた支援を提供するための、特別な支援を要する児童の 実態把握 — 「体育・自立活動シート」の活用—	21
(3) 全員への支援と個に応じた支援の両方の視点を取り入れた 授業指導案の作成	25
(4) 授業実践	26
(5) 評価	26

〈参考資料〉

資料1 ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックシート	27
資料2 体育・自立活動シート様式	28
資料3 体育・自立活動シート記入例	29
資料4 授業づくり 本時の展開の例	30
資料5 各学年、運動領域における児童の困難さに対する配慮の例 ～小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編より～	31

1 「豊かなスポーツライフ」の実現のために

スポーツを通じて国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むことができる社会の実現を目指すことを目的に、平成23年、スポーツ基本法が制定されました。スポーツ庁においては、「スポーツは、『する』『みる』『ささえる』とさまざまな形で、誰もが気軽に楽しめるもの」と捉え、スポーツ基本法に掲げられた理念の下、誰もが身体を動かすことを心から楽しみ、健康で、豊かな日本を作るべく取組を進めています。

平成30年の調査⁽¹⁾によると、障がい児・者の週1回以上のスポーツ・レクリエーションの実施率は、7～19歳で29.6%、成人は20.8%でした。令和元年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）によると、成人の週1日以上スポーツ実施率は53.6%ですから、障がいのある人のスポーツ実施率が低いことがわかります。

体育科では生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指すことを目標にしています。また、運動やスポーツとの多様な関わりを重視した内容の改善が図られ、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編に次のように示されました。

豊かなスポーツライフの実現を重視し、スポーツとの多様な関わり方を楽しむことができるようにする観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方や関わり方を共有することができるよう、共生の視点を踏まえて指導内容を示す。



(1) 笹川スポーツ財団「地域における障害者スポーツ普及促進事業（障害者のスポーツ参加促進に関する研究調査）報告書（平成30年3月）」

さらに、個々の児童の運動経験や技能の程度等に応じた指導等の工夫や障がいのある児童等についての指導方法の工夫についても明記されると共に、学校体育における学習機会の意義についても次のように述べられています。

障害の有無を超えたスポーツの楽しみ方の指導の充実として、合理的な配慮に基づき障害の有無にかかわらずスポーツをともに楽しむ工夫をする経験は、スポーツを通した共生社会の実現につながる学習機会である。

しかし、障がいのある児童生徒が抱える困難さは多様で、障がいの種類や程度によって一律に指導内容や指導方法が決まるわけではありません。児童一人一人の障がいの状態等により、学習上又は生活上の困難が異なることに十分留意し、個々の児童生徒の障がいの状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を検討し、適切な指導を行うことが重要です。

今回の改訂では、障害のある児童などの指導に当たっては、学習を行う場合に生じる困難さを次のように示しています。

見えにくさ、聞こえにくさ、道具の操作の困難さ、移動上の制約、健康面や安全面での制約、発音のしにくさ、心理的な不安定、人間関係形成の困難さ、読み書きや計算等の困難さ、注意の集中を持続することが苦手であることなど

そこで第1章の2では、これらについて体育の学習で考えられる困難さと、それに対する指導の工夫の例を示します。



運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること

体育の見方・考え方

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編」より

令和元年度第21回岩手県障がい者スポーツ大会参加者を対象に実施した調査⁽²⁾によると、在籍校種別に見た体育への参加状況は次のとおりでした。

		通常の学級							
		上段実数 下段割合	ほぼ参加し た	できるもの は参加した	ほぼ見学	代替え授業	不参加	その他	無回答
小学校		144 100.0%	107 74.3%	22 15.3%	2 1.4%	4 2.8%	3 2.1%	—	6 4.2%
中学校		112 100.0%	78 69.6%	17 15.2%	5 4.5%	4 3.6%	2 1.8%	—	6 5.4%
高校		60 100.0%	41 68.3%	11 18.3%	2 3.3%	—	1 1.7%	—	5 8.3%

		特別支援学級							
		上段実数 下段割合	ほぼ参加し た	できるもの は参加した	ほぼ見学	代替え授業	不参加	その他	無回答
小学校		142 100.0%	82 57.2%	48 33.8%	2 1.4%	1 0.7%	3 2.1%	—	6 4.2%
中学校		144 100.0%	93 64.6%	40 27.8%	2 1.4%	2 1.4%	3 2.1%	—	4 2.8%

		特別支援学校							
		上段実数 下段割合	ほぼ参加し た	できるもの は参加した	ほぼ見学	代替え授業	不参加	その他	無回答
小学校		78 100.0%	52 66.7%	17 21.8%	—	—	—	—	9 11.5%
中学校		117 100.0%	83 70.9%	22 18.8%	1 0.9%	—	—	—	11 9.4%
高校		295 100.0%	224 75.9%	52 17.6%	2 0.7%	1 0.3%	3 1.0%	—	13 4.4%

この調査によると、小学校では「児童の一部に不参加やほぼ見学、代替え授業という回答が示されており、最も必要な時期に十分な運動経験が得られていない事例があることが示された」と述べられています。中学校でも同様に、ほぼ見学や不参加、代替え授業という回答が見られます。この調査においても、「学齢期の体育授業との関わりは運動・スポーツへの意識や態度を涵養するもの」とであると述べられているとおり、豊かなスポーツライフを実現するためには、体育の学習において、児童生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが大切です。



(2) 「2019(令和元)年度 障害者スポーツを取り巻く社会環境に関する調査研究」(ヤマハ発動機スポーツ振興財団、2020年3月)

2 困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫

今回の学習指導要領の改訂では、障がいのある児童等の指導に当たっては、個々の児童によって、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、個々の児童の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫することを、各教科等において示しています。

運動領域の指導に当たっては、当該児童の運動（遊び）の行い方を工夫するとともに、活動の場や用具、補助の仕方に配慮する等、困難さに応じた手立てを講じることが大切です。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編には、次のように示されています。

- ・複雑な動きをしたり、バランスを取ったりすることに困難がある場合には、極度の不器用さや動きを組み立てることへの苦手さがあることが考えられることから、動きを細分化して指導したり、適切に補助をしながら行ったりするなどの配慮をする。
- ・勝ち負けに過度にこだわったり、負けた際に感情を抑えられなかったりする場合には、活動の見通しがもてなかったり、考えたことや思ったことをすぐに行動に移してしまったりすることから、活動の見通しを立ててから活動させたり、勝ったときや負けたときの表現の仕方を事前に確認したりするなどの配慮をする。

ここでは学習指導要領に示された「困難さ」に対しての指導の工夫を、例を挙げて説明します。

これ以降の項目は、私が補足説明をしていきます。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編には、各学年のそれぞれの運動領域に対して、知識及び技能に関わる「運動が苦手な児童への配慮の例」と、学びに向かう力、人間性等に関わる「運動に意欲的ではない児童への配慮の例」が示されています。それを巻末の参考資料(p.31～)としてまとめましたので、この章の項目と併せて参考にしてください。



(1) 見えにくさ



①どんな困難さが考えられるの？

- ・小さいものや細かい部分がわからない。
- ・大きいものや全体像を把握しにくい。
- ・境界線がはっきりつかめない。
- ・立体感や遠近感がつかみにくかったり、動くものの認知が難しかったりする。
- ・視野狭窄がある場合は、横から近づいてくるものに気づきにくい。



②指導の工夫

ア 疾病に対する配慮

- ・視野の欠損がある場合には、どの部分が見やすく、どの部分が見えにくいかを把握しておく。
- ・水泳運動では、プールサイドまで眼鏡装用を許可する。また、ゴーグルは眼を保護するために必ず使用する。



眼疾患によっては、網膜剥離や眼圧上昇等の危険から運動制限が必要な場合があります。眼や頭への打撲だけでなく、身体全体に衝撃の伝わる活動、下を向いたままの姿勢や力みすぎる事等への注意が必要な場合もあります。保護者、本人、必要な場合は眼科医とも連絡を取り合って、活動内容や保護用ゴーグルの使用等の配慮を検討しましょう。

イ 環境調整

- ・子供の実態に合わせて（明るい方がよい、暗い方がよい）照明を調節する。
- ・つばの付いた帽子をかぶる。

ウ 教材・教具の工夫

- ・提示する教材は、境界や輪郭をはっきりさせる。

例) 陸上運動では、ラインを濃く引く、本人が分かりやすいバトン使用、チームごとにビブスの着用、ボール運動では見分けやすい色のボールや音が鳴るボールの活用、等



エ 内容の工夫

- ・リレーではインコースを意識すると走りやすいので、インコースを走るようにする。
- ・器械運動や表現運動では教員やクラスメイトが目の前で手本を示したり、言葉で具体的に体の動かし方を指示したりする。またタブレットに手本を録画して見せる。
- ・音が鳴るボールを使用する際には、声援等で音がかき消されないように声援のルールを決めておく。

(2) 聞こえにくさ

口元が見えていれば、何を話しているのかわかるんだけどなあ。

①どんな困難さが考えられるの？

- ・音が小さく聞こえる。
- ・音が歪んで聞こえるために、内容が捉えにくい。
- ・周囲に雑音がある場所や反響の多い場所で、聞こえない（聞き取りにくい）。
- ・自分の声を聞くことが苦手なため、発声が途絶えたり、大きすぎる声で話したりする。
- ・誤って聞き取ってしまったり、重要な情報を把握できなかったりする。
- ・何度も聞き返すことに抵抗を覚え、わかっていなくてもわかっているように振る舞うことがある。
- ・大勢の人と交わることに労力を伴うため、そうした場を避けることがある。



補聴器は衝撃や汗に弱いため、衝撃を受ける可能性があるマット運動やボール運動等では外して専用のケースに入れましょう。水泳の時にも同様ですが、近年は防水の補聴器もありますので、補聴器の仕様を確認しておく必要があります。



②指導の工夫

ア 伝え方の工夫

- ・話す人の口元が見えるようにし、聞こえにくさのある児童生徒には話をする人の方を向くように指導する。
- ・個別に声をかけるときには、本人の正面に回ってから声をかける。
- ・音声だけではなく、身振り手振りをういたり、付箋紙に書いたりする等の視覚的な情報も併用する。
- ・目印になる物（コーン等）を置いたり、実際に移動して場所を確認したり、板書を利用して視覚的に理解できるようにする。



「あそこまで走って」と言われても、「あそこ」って、どこ？

イ 内容の工夫

- ・走の運動やゲームの際はホイッスルの音が聞き取れないことを想定して、スタートの合図として旗を使用したり、それぞれのルール等にハンドシグナルを決めたりしておく。
- ・表現運動では、教師が手（楽器）を叩く、指揮をする等して、リズムを視覚的に確認できるようにする。複雑な動きは事前に録画したものを見せて確認したり、実際の動きをタブレットで録画して確認したりする。





<人工内耳について>

人工内耳は、手術により蝸牛に電極を埋め込み、神経機構を代行する方法です。人工内耳は、その有効性に個人差があり、また手術直後から完全に聞こえるわけではありません。人工内耳を装用したとしても、その聞こえ方は通常のものとは異なるためにリハビリテーションが必要です。人工内耳の場合、頭に強い衝撃を受ける可能性のあるスポーツは控えたり、衝撃から守る工夫をしたり、静電気が起きないように配慮する必要があります。保護者、本人、必要な場合は主治医とも連絡を取り合って、活動内容等の配慮を検討しましょう。

ピックアップ

デフリンピックについて

聴覚障がいアスリートがパラリンピックに参加していないことを知らない人も多いのではないのでしょうか。

4年に1度、世界規模で行われる聴覚障がい者のための総合スポーツ競技大会を「デフリンピック(Deaflympics)」といいます。夏季大会は1924年にフランスで、冬季大会は1949年にオーストリアで初めて開催されています。一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会によると、「障害当事者であるろう者自身が運営する、ろう者のための国際的なスポーツ大会であり、また参加者が国際手話によるコミュニケーションで友好を深められるところに大きな特徴がある。」としています。

国際パラリンピック委員会(International Paralympic Committee)が1989年に発足した当時は、国際ろう者スポーツ委員会も加盟していましたが、デフリンピックの独創性を追求するために、1995年に組織を離れました。

なお、デフリンピックの独創性とは、コミュニケーション全てが国際手話によって行われ、競技はスタートの音や審判の声による合図を視覚的に工夫する以外、オリンピックと同じルールで運営される点にあります。また、パラリンピックがリハビリテーション重視の考えで始まったのに対し、デフリンピックは仲間同士での記録重視の考えで始まっています。しかし、現在は両方とも障がいの存在を認めた上で競技における「卓越性」を追求する考えに転換しています。



参考：一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会ホームページ

(3) 道具の操作の困難さ

①どんな困難さが考えられるの？

- ・縄をうまく回すことができない、跳ぶことができない。
- ・ボールを捕ったり、止めたり、持って走ったりすることが難しい。
- ・リレーのバトンの受渡しに難しい。

いわゆる「不器用」といわれる状態です。道具を使っていないときにも、体の動きのぎこちなさが見られる場合があります。



②指導の工夫

できないことを責めたり、特訓で苦手を克服しようとさせたりするのではなく、その子に合った目標を設定しましょう。安心して活動できる雰囲気作りを心がけ、小さなことでもできたら大いに賞賛しましょう。

ア ボディイメージを高める指導

- ・道具の操作の困難さは、ボディイメージの弱さから生じる場合があります、ボディイメージを高めることで、体の動きが上手になっていくことがある。

例) トランポリン・滑り台・ブランコ等の遊びを通して不安定な場所に慣れる
サーキット遊び等を通して全身で違う動きを経験する。

イ 内容の工夫

- ・縄跳びでは、動きを細分化し、スモールステップで学習する。動きをタブレットで録画する等して客観的に確認できるようにする。
- ・リレーでは、棒状のバトンではなく、リング上のバトンを使用したり、たすきを利用したりする。
- ・ボール運動の導入として、風船を使う（動きがゆっくりしているため、目で追うことが容易）。



<発達性協調運動障がいについて>

発達性協調運動障がいとは、日常生活における協調運動が、本人の年齢や知能に応じて期待されるものよりも不正確であったり、困難であったりする障がいです。本人の運動能力が期待されるよりどのくらい離れているかは、感覚処理行為機能テスト等のアセスメントテストの結果を参考に、医師が判断をします。

協調運動とは、手と手、手と目、足と手等の個別の動きを一緒に行う運動です。協調運動の障がいは、全身運動に現れることもあれば、指先を使った細かな動作に現れる場合もあります。



(4) 移動上の制約

①どんな困難さが考えられるの？

- ・体を自分が思うように動かすことができない（車いすや装具の使用、独歩でふらつきが見られる等）。
- ・運動・動作の制限により、直接的な経験が不足している。
- ・眼球運動の困難さから、視覚からの情報をうまく取り込めない（遠近感、ピント調整、必要な情報の獲得等）。また、視覚から取り込んだ情報を処理して動くことが難しい。
- ・周りの人々から支援を受ける場面が多く、結果として受動的になり、自発性が乏しくなりがちである。



他の児童生徒との身体的な接触を避けるために、体育の授業を見学していることも多く、運動経験が不足しやすい状態にあると考えられます。活動への参加は本人や保護者と相談し、安易な活動の変更や代替にならないように注意しましょう。

②指導の工夫

現在できることを生かして、当該学年の指導事項で学習に取り組むようにしましょう。当該学年の指導事項を全てねらうことが難しい場合は、種目の特性により深く触れるために当該学年の指導事項の中から、何ができるようになるか、個に応じた目標を設定しましょう。

ア 低学年段階での指導

- ・不足しがちな幼児期の遊びや運動経験を補うため、運動遊びの中で、達成感や満足感を十分に得られるように動きづくりを行いながら、自ら進んで体を動かそうという気持ちを育む。
- ・様々な運動遊びの中で運動を楽しみながら、普段しないような姿勢をとったり全身を使った運動を経験したりする中で、ボディイメージを高められるようにする。
- ・様々な運動遊びの中で、視覚、聴覚等の感覚を活用しながら周囲の状況を捉えて動くということ等に取り組み、基本的な動きや運動を調整する力を高めるようにする。

イ 動きを引き出す指導

- ・動きをイメージしやすいような具体的な声掛けをしたり、教師と一緒に動いたりして、個に応じた体の動かし方を身につけられるようにする。
- ・自分の動きをイメージすることが難しい場合は、タブレット等を使用して自分の動きを客観的に見て学ぶ活動を取り入れる。

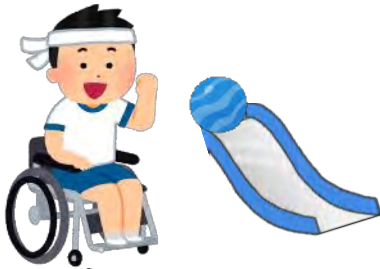
ウ 内容の工夫

- ・ マット運動で、前転や後転等障がいの状態により学習等が困難な場合、指導内容を横転にする等個別に内容を設定する。
- ・ ボール運動では、対象物の方に視線や体を動かす練習をする。また周囲が声を出して知らせる等、学習の中で意識的に行う。
- ・ 水泳運動の浮く運動で、水平姿勢でバランスを取ることが難しい場合は、スイムヘルパーを利用し、自分でバランスをとって浮くことができるように練習をする。
- ・ ゲームやボール運動を一緒に楽しむために、ルールや用具を工夫する。本人や周囲の子供達と話し合いながら、「こうすればできそうだ」ということを全員で考える。

Aちゃん、
ボール来るよ！



OK!



投球台を使うと、
転がすことができるよ。

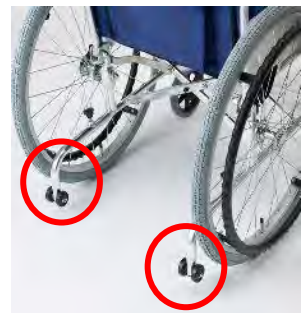


道具を使って、
サッカーに参戦！



<車いす使用の留意点について>

車いすを使用して体育の授業に参加する際は、タイヤの空気圧を確認する必要があります。適正な空気圧はタイヤに記入されていますので、エアゲージ付きの空気入れを使用し、適正圧を入れるようにしましょう。また、転倒防止バーは、後方にひっくり返って転倒することを防ぐためにも、必ず出ていることを確認してください。競技によっては、転倒に備えてサポーターやヘルメットを着用しましょう。



(5) 健康面や安全面での制約

①どんな困難さが考えられるの？

- ・学習時間に制約を受けているほか、学習の空白や遅れ、身体活動の制限がある。
- ・病気による種々の制限により、体験が不足しがちである。
- ・病気への不安や家族・友人から離れた不安から心理的にストレスを抱えている。



子供の病気の状態等を考慮し、活動が負担加重にならないようにする必要があります。しかし、体を動かすことは気分転換にもなり、ストレスを抱えがちな子供達にとってよい影響も与えます。制限されていることを理解した上で、「できること」を模索しましょう。

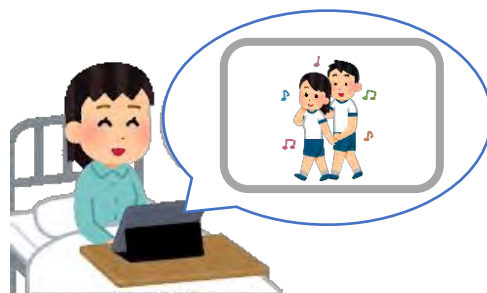
②指導の工夫

ア 疾病に対する配慮

- ・その日の体調を十分に把握し、運動の途中にも観察する。体調に変化が見られたときは無理をさせず、保護者と連絡を取り合うようする。
- ・緊急連絡体制及び緊急搬送体制については文書にまとめ、関係者で十分確認しておく。

イ 内容の工夫

- ・動きや運動量が制限されている場合は、本人と相談しながら、椅子に座ってできる活動（審判や記録係等）の役割を与える。
- ・学習に参加できる時間が制限されている場合は、その時間で何を学習するのかを明確にし、内容等の組み立てを行う。
- ・参加できない時間がある場合は、その部分を後から動画で視聴できるようにする等して補うようにする。



<骨形成不全症について>

骨の脆弱（ぜいじゃく）性があるために骨折を起こしやすく、また骨折の治癒過程で骨変形を来してしまう病気です。重症度には大きな個人差があり、軽症の場合は学校生活での制限がない場合もありますが、重症の場合、気づかないうちに骨折をしてしまっているということもあります。骨に負荷がかかるスポーツ（柔道やラグビーなど）を避けることや子供達同士の接触による転倒防止等が必要となります。



(6) 発音のしにくさ

①どんな困難さが考えられるの？

- ・口唇や歯等の器質的疾患や誤った構音操作の習慣化等によって、話し言葉の特定の発音が正しく発音できない。
- ・同性同年齢の子供と比較して言語理解や表現が未熟であり、発音技術も未完成であるため、話し言葉の不明瞭さ等がある。
- ・話し言葉が滑らかに出ないため思うように話ができなかつたり、そのことを気に病んで毎日の生活に支障をきたしたりしてしまう。
- ・口蓋（口の中の天井）の一部分または全体が生まれつき裂けていたため、話し言葉の呼気が鼻から抜けたり、誤った構音操作で発音したりしてしまう。

発音のしにくさのため、自分の思いを素直に表現することができない場合があります。例えば、「オレンジジュース」が飲みたいのに、最初の「オ」が発音しにくいので、「みかんジュース」のような発音に影響のない言葉を使ったり、「リンゴジュース」等自分の本意ではないものに置き換えて表現したりするといった状況です。また、話す場面を避けようとする考えられます。

言葉を介したコミュニケーションに困難さがあるため、学習上だけでなく、心理的、対人的な問題を抱えてしまうことがあることに留意する必要があります。

②指導の工夫

ア 支援の留意点

- ・日常的に安心して話すことができる雰囲気作りを心がける。
- ・子供の話をじっくり聞き、気持ちを受け止める。
- ・存分な活動を通して、言葉を介したコミュニケーションの心地よさや楽しさを感じることができるようにする。
- ・言葉に対する注意や言い直しをさせない。
- ・正確な発音や適切な表現でさりげなく確認をする。
- ・発音の不明瞭さや非流暢性ではなく、話す内容自体に注目しながら子供と関わる。



イ 話し合い場面での工夫

学習指導要領の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」では、配慮する事項として「筋道を立てて練習や作戦について話し合うことや、身近な健康の保持増進について話し合うこと等、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動を積極的に行うことに留意すること。」が挙げられています。よって、運動領域の指導に当たっては、必要に応じて話し合い等を促すこと等が考えられます。

- ・ペアやグループで一緒に発表させる。
- ・発表で使う言葉をパターン化する。

(7) 心理的な不安定、人間関係形成の困難

①どんな困難さが考えられるの？

- ・心理面での不安定さから、学習の積み上げが難しかったり、治療等により学習の空白期間が生じたりする。
- ・緊張や不安から、場面によっては、意図したことが言語表現できない。
- ・相手に対して適切な距離感が分からない。
- ・適切な対人関係を築くことが困難なため、集団での活動に参加することが難しい（参加を嫌がる）。



状況に合わない感情・気分が持続し、不適切な行動が引き起こされ、それらを自分の意思ではコントロールできないことが持続し、学校生活や社会生活に適応できなくなる状態にあると考えられます。

②指導の工夫

ア 不安を軽減するための工夫

- ・活動への見通しをもてるように、1時間の活動の流れを表にして視覚的に示す。
- ・できていることを伝え、称賛することで、安心感を得られるようにする。
- ・ペアやグループ活動では、本人が安心して活動できるようにグルーピングをする。
- ・学習の途中で不安が生じた場合の対応を決めておく。



こんなとき、
どうする？



教室に戻って、
休んでもいいですか？

イ 人間関係の形成に対する工夫

- ・相手に対して適切な距離感が分からない場合、過度に近づいたり、体に触れたりすることがないように、学級としてのルールを決めておく。
- ・授業の中で、ペアやグループ等を意図的に設定し、必要に応じて教員が支援を行いながら関わるようにする。

<ソーシャルスキルトレーニング (SST) について>

ソーシャルスキルとは、「社会生活や対人関係を円滑に営んでいくために必要な技能」のことを言います。ソーシャルスキルを自然に身に付けるということが難しいお子さんには、必要な技術の習得を目指して、SSTを行います。

ソーシャルスキルはすぐに身に付くものではありません。身に付けて欲しいスキルに優先順位を付け、スモールステップで取り組むことが必要です。達成できそうな目標を設定し、意図的に場面を設定してトレーニングを行います。

(8) 読み書きや計算等の困難さ



①どんな困難さが考えられるの？

ア 読むことが苦手

- ・文字や行をとばして読んでしまう
- ・助詞や文末を読み違える
- ・形の似た文字の弁別が困難
- ・どこまで読んだか分からなくなる

イ 書くことが苦手

- ・黒板の字を書き写すのが困難
- ・字形が整わない
- ・鏡文字を書く
- ・まとまりのある文章が書けない

ウ 計算することが苦手

- ・筆算で桁をそろえて計算できない
- ・繰り上がり、繰り下がりが困難
- ・簡単な計算間違いが多い

※これらの困難さは単独ではなく複数みられることがあります。

これらは体を動かしている時にはあまり目立たない可能性があります。審判や得点係をしたり、振り返りの活動をしたりする中で困難さを示す場合が考えられます。



②指導の工夫

ア 読むことが苦手

- ・単元の導入等で学習の流れや見通しを示す場合、文字と併せて写真やイラスト等の視覚教材を用いると理解が深まる場合がある。タブレット等も併せて活用する。

イ 書くことが苦手

- ・ワークシートは「どこに、何を書くのか」がわかりやすいものにする。そのため、学習領域が変わっても毎回同じ流れてワークシートがまとめられるように、様式は可能な限り同じものを使用する。
- ・枠のなかに文字が収まらない場合は、マス目や罫線で目印となるものを示すようにする。
- ・「書く」という負担を軽減する場合は、選択肢を設けて選ぶという活動にする

ウ 計算することが苦手

- ・計算ミスに気づきにくかったり、素早く得点を計算するのが困難な場合、計算機を使用したり、小さいホワイトボードを用いて計算するようにする。

(9) 注意の集中を持続することの苦手さ



①どんな困難さが考えられるの？

- ・注意の選択と配分がうまくできない。
- ・注意散漫で、指示や話を集中して聞くことができない。
- ・行動の自己統制が必要とされる状況で、無目的に動いてしまう。
- ・自己コントロールがうまくいかず、判断より先に反応（行動、発言等）が先行してしまう。
- ・話を終わりまで聞かず口をはさむ。
- ・順番を待つことができない。
- ・会話やゲームに割り込んできたり、邪魔をしたりする。
- ・危険なことを考えなしにやってしまう。

すべき行動が分かっているにもかかわらず、自分でコントロールすることができにくく、日常生活の中で困難さを感じている状態をいいます。



②指導の工夫

ア 安全に活動するための工夫

- ・運動場（体育館、グラウンド、プール等）でのルールの確認をする。
例）高いところ（柵木）等から飛び降りない、ボールを友達にぶつけない、棒状の物（バット等）を許可なく触らない、等

イ 学習課題の確認

- ・活動は、見て確認できるようにしておく。
- ・ゲームの場合、ルールが理解できているかを事前に確認する。

ウ 学習中の支援

- ・刺激し合う関係の児童同士は、同じグループにしない。
- ・短いサイクルでプラスの評価を与える。

エ トラブルが起こった時の対応

- ・誤った行動をしたときには、まずは共感し、その後、注意は短く具体的に、そして、なすべき行動を具体的に教える。



共感の公式 = 感情の原因 + だから + 感情を表す言葉 + なのね

ゲームの場面を例にすると

「ボールを取りに行ったのに、他のお友達が先に取ったから悲しかった（イライラした）のだね。」

「パラリンピックスポーツの体験」のススメ

今回の学習指導要領の改訂において、体育科では、内容の取り扱いにおける配慮事項として、体験を伴う活動の充実やオリンピック・パラリンピックに関する指導の充実について明記されています。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催決定以降、オリンピックやパラリンピック競技に関する報道や雑誌等の記事を目にする機会が多くなってきました。「する、みる、支える、知る」のスポーツとの多様なかわり方について考えるよい機会です。

国際パラリンピック委員会（IPC）は、パラリンピアンたちの秘められた力こそが、パラリンピックの象徴であるとし、以下の四つの価値を重視しています。

勇気

マイナスの感情に向き合い、
乗り越えようと思う精神力

インスピレーション

人の心を揺さぶり、
駆り立てる力

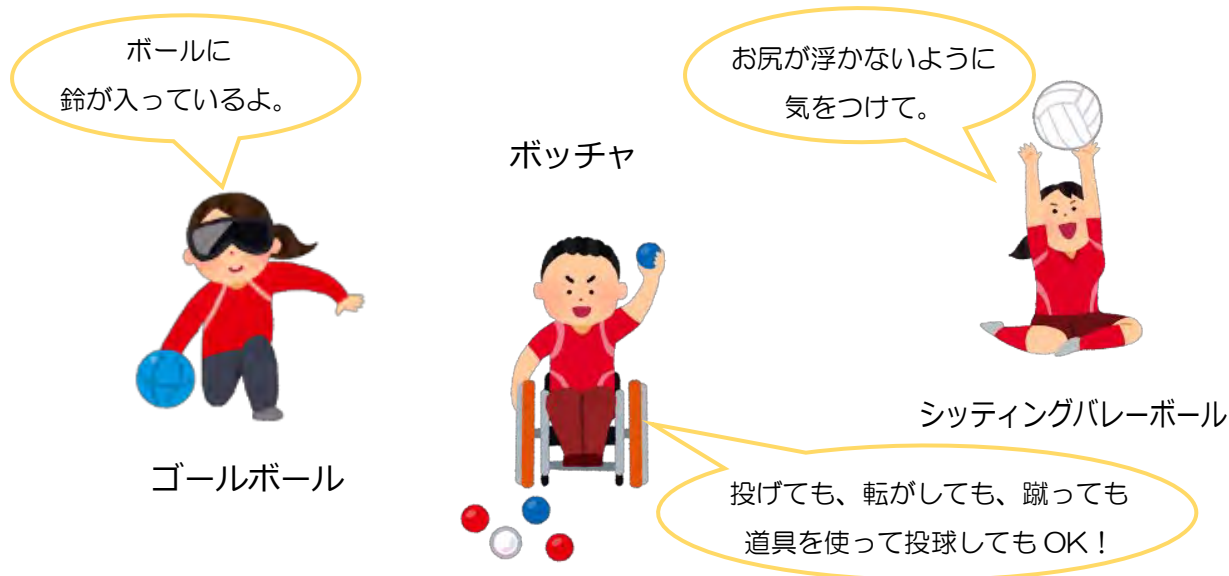
強い意志

困難があっても、諦めず
限界を突破しようとする力

公平

多様性を認め、創意工夫をすれば、
誰もが同じスタートラインに
立てることを気づかせる力

様々な障がいのあるアスリートたちが創意工夫を凝らして限界に挑むパラリンピックは、多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる公正な機会が与えられている場です。パラリンピックの競技を体験することは、社会の中にあるバリアを減らしていくことの必要性や、「できない」ことを「できる」に変えるための発想の転換や工夫が必要であることにも気付かせてくれます。



専用の道具が必要な競技もありますが、一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会や近隣の特別支援学校から借用できるものもあります。多様なスポーツに触れるきっかけとして、パラリンピックスポーツを体験してみたいはいかがでしょうか。

Ⅰ 合理的配慮

文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告（平成24年）において、合理的配慮は次のように定義されています。

「合理的配慮」とは、「障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの」であり、「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」

「合理的配慮」は、一人一人の障がいの状態や教育的ニーズ等に応じて決定されるものであり、これを具体的かつ網羅的に記述することは困難であることから、①教育内容・方法、②支援体制、③施設・設備の3観点について11の項目で整理されています（18ページ参照）

また、特別な支援を必要とする児童の指導については、小学校学習指導要領第1章総則第4節児童の発達の支援において、次のように示されています。

2 特別な配慮を必要とする児童への指導

(1) 障害のある児童等への指導

ア 障害のある児童等については、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

イ 特別支援学級において実施する特別の教育課程については、次のとおり編成するものとする。

(ア) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す**自立活動を取り入れる**こと。

2 基礎的環境整備

「基礎的環境整備」とは「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行います（18ページ参照）。基礎的環境整備を進めるに当たっては、ユニバーサルデザインの考え方も考慮しつつ進めていくことが重要です。バリアフリーが、障がいによりもたらされるバリア（障壁）に対処するとの考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方をいいます。

体育の授業づくりに当たっては、合理的配慮を「個に応じた支援」、その基礎となる環境整備を「全員への支援」としました。

子供達が自らの持てる力を発揮するためには、全ての子供が安心して学習に取り組むことのできる学級の支持的な風土が大切になります。互いの違いを認め合い、尊重し合える学級づくりに取り組みましょう。



『合理的配慮』の3観点(11項目)

① 教育内容・方法

①-1 教育内容

- ①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
- ①-1-2 学習内容の変更・調整

①-2 教育方法

- ①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
- ①-2-2 学習機会や体験の確保
- ①-2-3 心理面・健康面の配慮



② 支援体制

②-1 専門性のある指導体制の整備

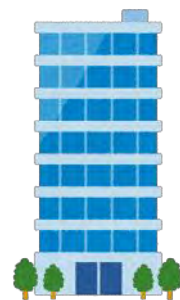
- ②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
- ②-3 災害時等の支援体制の整備

③ 施設・設備

- ③-1 校内環境のバリアフリー化
- ③-2 発達・障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
- ③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

『基礎的環境整備』の観点<8観点>

- ① ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- ② 専門性のある指導体制の確保
- ③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- ④ 教材の確保
- ⑤ 施設・設備の整備
- ⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配置
- ⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- ⑧ 交流及び共同学習の推進



文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会（平成24年）「特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告」より抜粋

3 自立活動

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（第7章第1）には、自立活動の目標が次のように示されています。

第1 目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

自立活動の目標は、学校の教育活動全体を通して、児童生徒が障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要とされる知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を培うことによって、**自立**を目指すことを示したものです。

ここでいう「**自立**」とは、児童生徒がそれぞれの障がいの状態や発達の段階等に応じて、**主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすることを**意味しています。



区分	項目
1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成
	(2) 病気の状態の理解と生活管理
	(3) 身体各部の状態の理解と養護
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整
	(5) 健康状態の維持・改善
2 心理的な安定	(1) 情緒の安定
	(2) 状況の理解と変化への対応
	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲
3 人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎
	(2) 他者の意図や感情の理解
	(3) 自己の理解と行動の調整
	(4) 集団への参加の基礎
4 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用
	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応
	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用
	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動
	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
5 身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用
	(3) 日常生活に必要な基本動作
	(4) 身体の移動能力
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行
6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力
	(2) 言語の受容と表出
	(3) 言語の形成と活用
	(4) コミュニケーション手段の選択と活用
	(5) 状況に応じたコミュニケーション

自立活動の指導は個別の指導計画に基づいて、個別指導や集団を構成して指導をします。特別の教育課程においては、自立活動を教科等とは合わせずに単独で位置付けたり、時間割に設定した教科領域と合わせて位置付けたり、学校の教育活動全体に位置付けたりして指導を行います。各教科においても、自立活動の目標や内容を意識して学習に取り組むことが大切です。

自立活動の「内容」は人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素を6区分27項目で示しています。

また、これらの「内容」は、各教科等のようにその全てを取り扱うものではなく、個々の児童生徒の実態に応じて必要な項目を選定して取り扱うことになりますので、児童生徒の実態把握をしっかりと行う必要があります。

4 授業づくりの流れ

授業づくりを行う際、体育科の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえた上で、特別な支援を必要とする児童には困難さに応じた指導や支援を取り入れ、障がいの有無にかかわらず一人一人のねらいが達成される授業に取り組む必要があります。そのため、授業づくりを次の流れで進めます。

(1) 全員への支援のための、学級の実態把握	20ページ
(2) 個に応じた支援を提供するための、特別な支援を要する児童の実態把握 ー体育・自立活動シートの活用ー	21ページ
(3) 全員への支援と個に応じた支援の両方の観点を取り入れた授業実践のための授業指導案の作成	25ページ
(4) 授業実践	26ページ
(5) 評価	26ページ

(1) 全員への支援のための、学級の実態把握

子ども一人一人の多様性を踏まえた授業づくりを行うため学級の実態把握を行います。

実態把握を行う際、児童側と教員側の両方の側面から評価を行います。

<児童の実態を把握するために使用できるツールの例>

- ・文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」
- ・SDQ (Strength and Difficulties Questionnaire : 子どもの強さと困難さアンケート)

子供達の特性は？
学級の雰囲気は？



<教員の授業づくりの実態を把握するために使用できるツールの例>

- ・岩手大学教育学部特別支援教育科「通常の学級における教科指導ー“みんな”と“この子”の両方に配慮する授業づくりー」より『高知大学教育学部特別支援教育科作成「ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックシート」(吉岡・鈴木、2014；宗石・是永・岩城、2019等)』→ 27ページ参考資料

そうか！子供達にはこのような課題があり、自分の授業づくりにここが不足しているんだ。



また、「Q-U ; QUESTIONNAIRE—UTILITIES (楽しい学校生活を送るためのアンケート)」を用いると、学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感等を測定できます。これらを基に、困難を抱えている児童の実態を客的に把握します。また、ユニバーサルデザイン化授業の実践度を把握し、全員が授業内容がわかり、学習活動に参加している実感・達成感をもつことができる指導の工夫を考えます。

(2) 個に応じた支援を提供するための、特別な支援を要する児童の実態把握—体育・自立活動シート—の活用—

体育の学習において、支援を必要とする児童の実態を把握し、適切な支援へつなげるため「体育・自立活動シート」を活用します。記入は①～⑤の流れで行います。

【 体育・自立活動シート 】		記載日	2年9月▲日
		氏名	花巻 〇子
【自立活動の目標】			
①	長期		
	短期		
	(学期)		
【運動に対する興味・関心の状況】			
②	運動することは	意欲的	意欲的ではない ・ どちらともいえない 好きな活動・運動
	友達と活動することは	意欲的	意欲的ではない ・ どちらともいえない
	◇自分にあった「めあて」を正しくもつことができているか		・学習資料等があればできる
	◇めあてを達成するための運動の工夫や練習ができているか		
	◇協力や教え合いができているか		
	◇学習の様子		
【体育(運動領域)で配慮すべきこと等】			
③			
【体育(運動領域)への参加状況】			
④	領域	参加方法	困難さ 具体的な支援
	A 体づくりの運動系	全部参加	なし
	B 器械運動系		
	C 陸上運動系		
	D 水泳運動系		
	E ボール運動系		
	F 表現運動系		
【領域 E ボール運動系 について】			
⑤	E ボール運動系 に対して	意欲的	意欲的ではない ・ どちらともいえない
	E ボール運動系 に対しての本人の願い		
	E ボール運動系 (この単元)の目標		
	E ボール運動系 (この単元)の評価		
自立活動 (6区分27項目)			
1 健康の保持	(1)	生活リズムや生活習慣の形成	
	(2)	病気の状態の理解と生活管理	
	(3)	身体各部位の状態と養護	
	(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整	
	(5)	健康状態の維持・改善	
2 心理的安定	(1)	情緒の安定	
	(2)	状況の理解と変化への対応	
	(3)	学習上または生活上の困難の改善・克服	
3 人間関係形成	(1)	他者とのかかわりの基礎	
	(2)	他者の意図や感情の理解	
	(3)	自己の理解と行動の調整	
	(4)	集団参加への参加の基礎	
4 環境の把握	(1)	保有する感覚の活用	
	(2)	感覚や認知特性への対応	
	(3)	感覚の補助及び代行手段の活用	
	(4)	周囲の状況の把握と状況に応じた行動	
	(5)	認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	
5 身体の動き	(1)	姿勢と運動・動作の基本的技能	
	(2)	姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用	
	(3)	日常生活に必要な基本動作	
	(4)	身体の移動能力	
	(5)	作業に必要な動作と円滑な遂行	
6 ケーコミュニケーション	(1)	コミュニケーションの基礎的能力	
	(2)	言語の受容と表出	
	(3)	言語の形成と活用	
	(4)	コミュニケーション手段の選択と活用	
	(5)	状況に応じたコミュニケーション	

① 自立活動の目標

〔自立活動の目標〕	
長期	
短期 (学期)	

個別の指導計画の自立活動の目標を転記します。その目標が自立活動の内容の区分（19 ページ参照）も合わせて記載します。

<移動上の制約のある児童の記入例>

長期	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体の特性を理解し、安全に気をつけながら運動したり、集団の中で状況に応じて行動したりすることができる。<1健康の保持(3)(4)、4環境の把握(5)、5身体の動き(5)> ・特別支援学級や交流学級で、友達とのよりよい関わり方ができる。<3人間関係の形成(3)(4)、6コミュニケーション(5)>
短期 (2学期)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体の特性を理解し、安全に気をつけて、交流学級の友達との体育の学習に取り組むことができる。<1健康の保持(3)(4)、4環境の把握(5)、5身体の動き(5)> ・相手の立場や気持ちを考え、場に応じた会話や発表等ができる。<3人間関係の形成(4)、6コミュニケーション(5)>



特別支援学級在籍の児童はもちろんのこと、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童にも、「体育・自立活動シート」は有効です。なぜなら、困難さや配慮事項を可視化することにより、個に応じた具体的な支援につなげることができるからです。

記入できない部分は空欄でも構いませんので、是非活用してください。

② 運動に対する興味・関心の状況

〔運動に対する興味・関心の状況〕		
運動することは	意欲的・意欲的ではない・どちらともいえない	好きな活動・運動
友達と活動することは	意欲的・意欲的ではない・どちらともいえない	
◇自分に合った「目当て」を正しくもつことができているか		
◇めあてを達成するための運動の工夫や練習ができているか		
◇協力や教え合いができているか		
◇学習の様子		

「運動すること」と「友達と活動すること」に関しては、当てはまるものを○（マル）で囲み、「好きな活動、運動」は記入します。「めあて」や「協力、教え合い」は以下の項目から現在の実態に一番近いものを選択します。「学習の様子」には選んだ項目の根拠となる内容を記載します。

- ・学習資料等を活用し、発展させてける
- ・友達の協力があればできる
- ・教員の指導があっても難しい
- ・学習資料等があればできる
- ・教員の指導があればできる

③ 体育（運動領域）で配慮すべきこと等

〔体育（運動領域）で配慮すべきこと等〕

困難さによっては、体育の中で配慮すべきことや運動をする際の禁止事項がある場合がありますので、それを記入します。

<見えにくさのある児童の記入例>

- ・強い日差しを避けるため、屋外ではサングラスやゴーグルを使用すること。

<聞こえにくさ児童の記入例>

- ・人工内耳への強い衝撃を避けること。（ボール運動、マット運動等）

<移動上の制約がある児童の記入例>

- ・股関節への強い衝撃を避けること。（ただし、軽くジャンプする程度は可）
- ・水泳運動等で装具を外した後装着する際は、教員はベルトが締まっていることを確認すること。



本人や保護者から聞き取って必要に応じて、主治医と相談することも考えなくてはいけないな。

④ 体育（運動領域）への参加状況

〔体育（運動領域）への参加状況〕			
領域	参加方法	困難さ	具体的な支援
A 体づくりの運動系			
B 器械運動系			
C 陸上運動系			
D 水泳運動系			
E ボール運動系			
F 表現運動系			

参加方法は「全部参加、一部参加、参加しない」から選択します。困難さは「あり、なし」を選択し、「あり」の場合はその具体を記入します。更に、その困難さに対して行った具体的な支援を記入します。

<移動上の制約のある児童の記入例>

領域	参加方法	困難さ	具体的な支援
A 体づくりの運動系	全部参加	あり ・未経験の動きがある （体の動きが小さくなったり、消極的に見えることがある）	・教師や友達の動きを真似て動くように声が行った
B 器械運動系	一部参加	あり ・股関節に負担のかかる運動は禁止されている	・跳び箱は、ロイター板を使用せず、両手をついて跳び箱に乗る練習をした
C 陸上運動系	一部参加	あり ・股関節に負担のかかる運動は禁止されている	・高跳びは見て学ぶこととした ・記録係に取り組んだ
D 水泳運動系	一部参加	あり ・足の動かし方がぎこちなく、バタ足が難しい ・装具を外して裸足で歩くと、転倒の危険がある	・個別にバタ足の練習の時間を取り、動きをイメージできるようにした ・プールサイドまで装具を使用することとした
E ボール運動系	全部参加	あり ・走るときに体が左右に揺れるので、他の児童と衝突する危険がある	・教師が声が行い、児童同士がぶつからないように意識できるようにした
F 表現運動系	全部参加	あり ・細かい体の動きを模倣することが難しい	・自分の動きを客観的に見るため、タブレットで録画をし、それを見て動きを確認できるようにした

※膝下からの装具を使用して歩く（日常的な車いす使用はない）児童を想定

⑤ 領域〇〇への参加状況

〔 領域 〇〇 に対して 〕	
〇〇	に対して 意欲的 ・ 意欲的ではない ・ どちらともいえない
〇〇	に対しての本人の願い
〇〇	(この単元)に目標
〇〇	(この単元)の評価

〇〇の部分には運動領域が入ります。その運動領域に対して、意欲的かどうかを○(マル)で囲み、「本人の願い」は聞き取って記入します、体育科の目標や内容の趣旨、学習活動ねらいと本人の願いを踏まえ、単元における目標を設定します。

<移動上の制約のある児童の記入例>

〔運動領域 Eボール運動系 に対して〕

E ボール運動系	に対して	意欲的	・ 意欲的ではない ・ どちらともいえない
E ボール運動系	に対しての本人の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなと楽しくプレーしたい ・ 自分に来たボールは、きちんと仲間につなぎたい 	
E ボール運動系	(この単元)に目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで楽しくできるルールを選ぶことができる ・ 片手、もしくは両手でパスをつなぐことができる 	
E ボール運動系	(この単元)の評価	※単元終了後に記入する	



このシートの完成版が28ページにあるから、参考にしよう。

(3) 全員への支援と個に応じた支援の両方の視点を取り入れた授業指導案の作成

体育科の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえた上で、一人一人の児童の障がいの状態や発達の段階に応じた指導や支援を行います。指導案作成に当たっては、各時間の目標と評価の方法(評価規準)を明確にします。展開案における指導上の留意点は「全員への支援」と「個に応じた支援」に分けて作成します(作成例は29ページ)。

それぞれの支援が分かりやすくなるね。

【本時の展開の様式の例】

段階	学習活動	指導上の留意点(◇評価)		準備物
		全員への支援	個に応じた支援	
導入				
展開				
まとめ				



(4) 授業実践

指導案を基に、授業実践を行います。1時間ごとの授業実践において、全員への支援と個に応じた支援を見直ししながら単元を進めます。



今日はこういう手立てで、
こういう風に声をかけたけど、もっと
〇〇した方がよいかも…。

1時間ごとにPDCAサイクルを回し、
授業を改善していくことが、一人一人の目
標が達成される授業につながります。



(5) 評価

単元の評価をします。支援の必要な児童の評価は「体育・自立活動シート」の〔領域〇〇に対して〕の評価欄に記入します。また、今回新たに分かった困難さやそれに対する具体的手立ては〔体育（運動領域）への参加状況〕へ追記します。

〔運動領域 Eボール運動系 に対して〕

E ボール運動系 に対して	意欲的 ・ 意欲的ではない ・ どちらともいえない
E ボール運動系 に対しての本人の願い	・ みんなと楽しくプレーしたい ・ 自分に来たボールは、きちんと仲間につなぎたい
E ボール運動系 （この単元）に目標	・ みんなで楽しくできるルールを選ぶことができる ・ 片手、もしくは両手でパスをつなぐことができる
E ボール運動系 （この単元）の評価	

単元を通して、全員への支援と個に応じた支援が適切であったかについても併せて評価します。適切ではなかったと評価した内容を改善し、次の授業づくりに生かします。

「体育・自立活動シート」があれば、次の
単元でも配慮すべきことや手だてが分か
るから、役に立ちそうだね。



參考資料



資料 1	ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックシート	27
資料 2	体育・自立活動シート 様式	28
資料 3	体育・自立活動シート記入例	29
資料 4	授業づくり 本時の展開の例	30
資料 5	運動領域における児童の困難さに対する配慮の例 ～小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説体育編より～	
	◇第 1 学年及び 2 学年	31
	◇第 3 学年及び 4 学年	38
	◇第 5 学年及び 6 学年	49

ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックシート

ユニバーサルデザインポイントⅠ. 環境の工夫	評価	備考
1 教室の前面には一切掲示物をしない		
2 座席の位置は子どもの状態を配慮して教師が確認する		
3 1時間の授業の流れを視覚的に提示する		
4 授業の初めや途中で学習に必要なものが出されているか確認する		
5 学習姿勢や学習規律を具体的に指示する		
ユニバーサルデザインポイントⅡ. 情報の伝達	評価	備考
6 アイコンタクトをとりながら具体的で明確な指示や説明をする		
7 板書や絵、写真、具体物等の視覚的支援を活用する		
8 文字の大きさや量を考慮する		
9 授業の流れがわかる板書にする		
ユニバーサルデザインポイントⅢ. 活動内容の工夫	評価	備考
10 授業の進め方にパターンを決めている		
11 「静」と「動」の活動を組み合わせるなど、授業にメリハリをつける		
12 次の課題を事前に準備するなど、理解が早い子どもへの対応や見通しを持たせる工夫をする		
13 具体物の操作や体験的な学習を取り入れるなど、多様な感覚を使う工夫をする（見る、聞く、話す、各、動くなど）		
14 児童同士の関わり合い、学び合い、教え合う場を設定する		
ユニバーサルデザインポイントⅣ. 教材・教具の工夫	評価	備考
15 ワークシートを活用する		
16 身近なものから教材を見つけるなど子どもがイメージしやすい工夫をする		
17 ICTを活用し、学習内容が理解しやすくなる工夫をする		
ユニバーサルデザインポイントⅤ. 評価の工夫	評価	備考
18 具体的に子どもに伝わる方法で褒める		
19 評価を目で見えるように児童生徒に示す工夫をする（○印を入れる、シールを貼る、結果のグラフ化等）		
20 行動の直後の表や机間指導等で個別に賞賛や注意を行う		

1 : 全くできていない 2 : あまりできていない 3 : どちらともいえない
 4 : 少しできている 5 : かなりできている

体育・自立活動シート

記載日 年 月 日
氏名 _____

資料2

〔自立活動の目標〕

長期	
短期 (学期)	

〔運動に対する興味・関心の状況〕

運動することは	意欲的・意欲的ではない・どちらともいえない	好きな活動・運動
友達と活動することは	意欲的・意欲的ではない・どちらともいえない	
◇自分に合った「目当て」を正しくもつことができているか		
◇めあてを達成するための運動の工夫や練習ができているか		
◇協力や教え合いができているか		
◇学習の様子		

〔体育（運動領域）で配慮すべきこと等〕

--

〔体育（運動領域）への参加状況〕

領域	参加方法	困難さ	具体的な支援
A 体づくりの運動系			
B 器械運動系			
C 陸上運動系			
D 水泳運動系			
E ボール運動系			
F 表現運動系			

〔領域 に対して 〕

	に対して	意欲的 ・ 意欲的ではない ・ どちらともいえない
	に対しての本人の願い (この単元)に目標	
	(この単元)の評価	

自立活動（6区分27項目）

区分	項 目
1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成
	(2) 病気の状態の理解と生活管理
	(3) 身体各部の状態の理解と養護
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整
	(5) 健康状態の維持・改善
2 心理的な安定	(1) 情緒の安定
	(2) 状況の理解と変化への対応
	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲
3 人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎
	(2) 他者の意図や感情の理解
	(3) 自己の理解と行動の調整
	(4) 集団への参加の基礎
4 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用
	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応
	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用
	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動
	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
5 身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
	(3) 日常生活に必要な基本動作
	(4) 身体の移動能力
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行
6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力
	(2) 言語の受容と表出
	(3) 言語の形成と活用
	(4) コミュニケーション手段の選択と活用
	(5) 状況に応じたコミュニケーション

体育・自立活動シート

記載日 年 月 日
氏名

資料3

【自立活動の目標】

長期	・自分の体の特性を理解し、安全に気をつけながら運動したり、集団の中で状況に応じて行動したりすることができる。＜1健康の保持(3)(4)、4環境の把握(5)、5身体の動き(5)＞
短期 (2学期)	・自分の体の特性を理解し、安全に気をつけて交流学級の友達と仲良く体育の学習をする。 相手の立場や気持ちを考え、場に応じた会話や発表などができる。

【運動に対する興味・関心の状況】

運動することは	(意欲的) 意欲的ではない・どちらともいえない	好きな活動・運動
友達と活動することは	意欲的・意欲的ではない<どちらともいえない>	サッカー
◇自分に合った「目当て」を正しくもつことができているか	・学習資料等があればできる	
◇めあてを達成するための運動の工夫や練習ができているか	・教員の指導があればできる	
◇協力や教え合いができているか	・友達の協力があればできる	
◇学習の様子 ・体育の授業を楽しみにしており、みんなと同じように運動しようとしている。 ・個人目標に対して努力しようとする姿が見られるが、チーム等集団での活動においては、周りの児童に任せ、学習に消極的に見えることがある。		

【体育（運動領域）で配慮すべきこと等】

・股関節への強い衝撃、負担を避ける

【体育（運動領域）への参加状況】

領域	参加方法	困難さ	具体的な支援
A 体づくりの運動系	全部参加	あり ・未経験の動きがある（体の動きが小さくなったり、消極的に見えたりすることがある）	・教師や友達の動きを真似て動くように声かけを行った
B 器械運動系	一部参加	あり ・股関節に負担のかかる運動は禁止されている	・跳び箱は、ロイター板を使用せず、両手をついて跳び箱に乗る練習をした
C 陸上運動系	一部参加	あり ・股関節に負担のかかる運動は禁止されている	・高跳びは見て学ぶこととした ・記録係に取り組んだ
D 水泳運動系	一部参加	あり ・足の動かし方がぎこちなく、バタ足が難しい ・装具を外して裸足で歩くと、転倒の危険がある	・個別にバタ足の練習の時間を取り、動きをイメージできるようにした ・プールサイドまで装具を使用することとした
E ボール運動系	一部参加	あり ・走るときに体が左右に揺れるので、他の児童と衝突する危険がある	・教員が声かけを行い、児童同士がぶつからないように意識できるようにした
F 表現運動系	全部参加	あり ・細かい体の動きを模倣することが難しい	・自分の動きを客観的に見るため、タブレットで録画をし、それを見て動きを確認できるようにした

【領域E ボール運動系に対して】

E ボール運動系に対して	(意欲的) 意欲的ではない・どちらともいえない
E ボール運動系に対しての本人の願い	・みんなと楽しくプレーしたい ・自分に来たボールはきちんと仲間にパスしたい
E ボール運動系（この単元）に目標	・みんなで楽しくできるルールを選ぶことができる ・片手、もしくは両手でパスをつなぐことができる
E ボール運動系（この単元）の評価	※単元終了後に記入する

自立活動（6区分27項目）

区分	項目
1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成
	(2) 病気の状態の理解と生活管理
	(3) 身体各部の状態の理解と養護
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整
	(5) 健康状態の維持・改善
2 心理的な安定	(1) 情緒の安定
	(2) 状況の理解と変化への対応
	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲
3 人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎
	(2) 他者の意図や感情の理解
	(3) 自己の理解と行動の調整
	(4) 集団への参加の基礎
4 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用
	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応
	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用
	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動
	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
5 身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
	(3) 日常生活に必要な基本動作
	(4) 身体の移動能力
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行
6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力
	(2) 言語の受容と表出
	(3) 言語の形成と活用
	(4) コミュニケーション手段の選択と活用
	(5) 状況に応じたコミュニケーション

授業づくり 本時の展開の例

＜第5学年及び6学年 Eボール運動 「ソフトバレーボール」＞

段階	学 習 活 動	指導上の留意点 (◇評価)		準備物
		全員への支援	個に応じた支援	
導入 12分	1 あいさつ			<ul style="list-style-type: none"> 支柱 ネット ボール
	2 準備運動 ・体育リーダーの号令に合わせて、体を動かす。		※声かけにより以下の点を意識して準備運動ができるようにする。 ・アキレス腱を伸ばす動きでは前後に開いた足が平行になるようにする。 ・肩や首回しの動きでは、ゆっくり大きく動かすようにする(必要に応じて肩に手を置く等し、動きの個所をより意識できるようにする)。	
展開 23分	3 チーム練習 ・円陣パス	<ul style="list-style-type: none"> ・「1、2、3…」と声をかけながらパスをつなぐように促す。 ・パスがつかない場合はキャッチしても良いことを知らせ、相手が受けやすい位置にボールをはじくように伝える。 ・肯定的な雰囲気作り(声かけ)を心かけ、楽しんで練習に取り組むことができるようにする。 		
	4 課題の確認	仲間とパスをつないでゲームをしよう②		
	5 ゲーム ・1ゲーム7分、3ローテーションで行う。 ・友達の動きを録画する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で出された課題やルールの工夫を基に、本時のルールを知らせる。 ・ゲームをしていない児童は、他のグループの動きを録画し、その中からよいと思う動きや工夫しているところを見つけるように促す。 ・サービスのタイミングが掴めない児童には、サービスを打つ際は「1、2の3」とかけ声をかけ、3のタイミングで打つように知らせる。 ・「1、2、3…」と声をかけながらパスをつなぐように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の児童にぶつかったり、転倒したりすることがないように見守り、必要に応じて声をかける。 ・サービスを打つ際の動きを確認する。 	・タブレット
	◇ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動することができる。(観察)	◇ボールの方向に体を向けて、ボールをとらえようとしている。(観察)		
終末 10分	6 学習の振り返り ・動画を基にゲームを振り返り友達の工夫を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰(どこのチーム)の、どのような動きがどのように良い(工夫されている)と感じたのかを具体的に伝えるように知らせる。 		
		◇自己や仲間が行っていた動き方の工夫を、ICT機器を用いて記録した動画を使って友達に伝えている。		
	7 次時の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくゲームを行うためにはどのようなルールが必要かを話し合うように促す。 ・発表した内容を基に、次時のルールを決めて本時と同じ流れで学習することを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームでの話し合いに消極的な場面がみられた場合、同じチームの児童に声をかけ、同じチームの児童からAさんの発言を促してもらうように支援する。 	
	8 あいさつ			

各学年、運動領域における児童の困難さに対する配慮の例～小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編より～

資料5

【 第1学年及び第2学年の内容 】

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例	
A 体づくりの運動遊び	(1) 知識及び技能	ア 体ほぐしの運動遊び	・心や体の変化に気付くことが苦手な児童	・表情を表す絵や感情を表すカードを示し、自己の心や体の変化のイメージができるようにする	
			・友達と楽しく運動をすることが苦手な児童	・友達とハイタッチや拍手で喜びを共有するなど、共に運動遊びをする楽しい雰囲気を実感することができるようにする	
		イ 多様な動きをつくる運動遊び	(7) 体のバランスをとる 運動遊び	・回るなどの動きでバランスをとることが苦手な児童	・できそうなところに目印を置いて回ったり、軸になる足の位置に輪を置いたりするなど、回りやすくする場を設定する
				・足の裏を合わせて座った姿勢のまま転がって起きることが苦手な児童	・補助を受けながら、体の重心をゆっくりと移動する動きを身に付けるようにする
				・二人組になって同時に座る、立つなどの動きが苦手な児童	・補助を受けながら単独での動きを試みる
				・体のバランスを保つ動きが苦手な児童	・個別に行い方を説明したり、友達の行い方を見ながら真似をしたりする
			(4) 体を移動する 運動遊び	・様々な行い方で這ったり、歩いたり、走ったりすることが苦手な児童	・友達の行い方の真似をしたり、友達の後について行ったりするなど、体の動かし方が分かるようにする
				・跳ぶ、はねるなどの動きが苦手な児童	・跳ぶ方向が分かるよう矢印を置いたり、はねた際に手でタッチできるよう目印をぶら下げたりするなど、場や用具を準備する
				・一定の速さでのかけ足が苦手な児童	・継続できる速さを助言したり、音楽に合わせてるようにしたり、友達とかけ声を合わせながら走ったりする
			(5) 用具を操作する 運動遊び	・回す、転がすなど用具を操作することが苦手な児童	・ボールやフープなど用具の大きさ、柔らかさ、重さを変えて操作しやすくする
				・用具を投げる、捕るなどの動きが苦手な児童	・新聞紙を丸めた球や新聞紙で作った棒、スポンジのボールなど、恐怖心を感じにくい用具を用いたり、紙鉄砲を用いた遊びを取り入れたりする
				・なわを跳んだり、くぐったりすることが苦手な児童	・跳び越す位置や動き方を示したり、かけ声によってタイミングを合わせることができるように行ったりする

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
A 体づくりの運動遊び	(1) 知識及び技能	イ 多様な動きをつくる運動遊び (エ) 力試しの運動遊び	・ すもう遊びや力比べが苦手な児童	・ 力を入れたり緩めたりする行い方について助言したり、力を加減するタイミングをつかめるように声をかけたりする
			・ 友達を引きずったり、おんぶをしたりする動きが苦手な児童	・ 補助を受けながら行ったり、動く距離を短くしたりする
			・ 体を支える動きが苦手な児童	・ 肘を曲げずに手の平で地面や床を押ししたり、目線を地面や床と平行にしたりすることができるよう助言する
(2)	(3) 学びに向かう力、人間性等		・ 体を動かすことを好まない児童	・ 教室から友達と手をつないで体育館や運動場に移動するなど、授業前から友達と関わりながら自然に運動遊びに加わっていきことができるようにする
			・ 友達と関わり合うことに意欲的になれない児童	・ ペアやグループで調子を合わせて動くことによって、気持ちも弾んでくることが実感できる運動遊びを準備したり、意欲が感じられる児童のつぶやきや動きを取り上げて共感したりする
B 器械・器具を使つての運動遊び	(1) 知識及び技能	ア 固定施設を使った運動遊び	・ ジャングルジムを使った運動遊びで、登ることが苦手な児童	・ 低い場所に音の鳴る教具を付けることで登ることへの興味を喚起したり、低い場所を横に移動したりして、高さに慣れるようにする
			・ 雲梯を使った運動遊びで、体を揺らして移動することが苦手な児童	・ 体を支えて移動できるように補助をしたり、少し斜めを向いた姿勢で片手ずつ動かして移動できるように助言したりして、懸垂の姿勢と体の揺れを使って移動できる動きが身に付くようにする
			・ 登り棒を使った運動遊びで、足が滑って登ることが苦手な児童には、	・ ハチマキなどを巻いて節をつくり、足が滑らないようにする
			・ 肋木を使った運動遊びで、ぶら下がって移動することが苦手な児童 手で支えて移動することが苦手な児童	・ 足を上げてポーズをとったり、足を振ってみたりするなど、ぶら下がってできる運動遊びをしたり、 ・ 高さごとに色分けした場で、同じ色の高さを横に歩いたり、色の違う高さに登ったり移動したりできるようにして、取り組みやすい場にする
			・ 平均台を使った運動遊びで、バランスを保つことが苦手な児童	・ 床のライン上で姿勢よく体重移動ができるように歩いたり、高さのあるところでは手をつないだりする

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
B 器械・器具を使っ ての運動遊び	(1) 知識及び技能	イ マットを使った運動遊び	・手で体を支えて移動することが苦手な児童	・手や足を移動する場所や目線の先にマークを置くなどして、支持で移動できる体の動かし方が身に付くように教具や場を設定する
			・前や後ろへ転がるのが苦手な児童	・体を丸めて揺れるゆりかごに取り組んだり、傾斜のある場で勢いよく転がるように取り組んだりして、転がるための体の動かし方が身に付くように練習の仕方や場を設定する
		ウ 鉄棒を使った運動遊び	・体を揺らすことが苦手な児童	・腕や頭を動かして反動をつけたり、補助を受けて体を軽く揺らしたりして、揺れるための体の動かし方が身に付くようにする
			・鉄棒上で支えたりバランスをとることが苦手な児童	・伸ばす部位を助言したり、支持しているときの目線の先を示したりして、バランスをとる動きが身に付くようにする
			・跳び上がることが苦手な児童	・台などを設置して、支持や跳び上がりなどを行いやすい場を設定する
			・回転することが苦手な児童	・腹を掛けて揺れたり、補助や補助具などを使って回転したりして、体を丸めて勢いよく回転する体の動かし方が身に付くようにする
	エ 跳び箱を使った運動遊び	・踏み越し跳びや手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下り、手を着いての跳び乗りや跳び下りが苦手な児童	・高さを低くしたり、跳び箱の手前に台を置いて跳び乗りやすくしたりして、手で支えたり、跳んだりする動きが身に付くように場を設定する	
		・馬跳びやタイヤ跳びが苦手な児童	・床でうさぎ跳びやかえるの足打ち、かえるの逆立ちなどを行い、手で支えたり、跳んだりする動きが身に付くようにする	
	(2)			
	(3) 学びに向かう力、人間性等		・怖くて運動遊びに取り組めない児童	・器械・器具の高さを変えたり、痛くないように配慮した場を設定したりして、条件を変えた場を複数設定して選択できるようにする
・自信がもてない児童			・成功回数が多くなる簡単な運動遊びを取り入れたり、できたことを称賛したりして、肯定的な働きかけができるようにする	
・恥ずかしがる児童			・二人組で手をつないで跳び下りたり、集団で転がったりできる運動遊びを取り入れたりして、友達と一緒に運動遊びをする楽しさに触れることができるようにする	

(2)は思考力、判断力、表現力等

C 走・跳の運動遊び	(1) 知識及び技能	ア 走の運動遊び	・かけっこで、リズムよく走ることが苦手な児童	・一定のリズム、速いリズムなど、いろいろなリズムで走ったり、レーン上に目印を置いて、分かりやすいレーンを設定したりする
			・リレー遊びで、バトンを上手に渡したり受けたりすることが苦手な児童	・手で相手の背中にタッチしたり、迎えタッチにしたりするなど、タッチの仕方を変えたり、受渡しがしやすくなるように形状の異なるバトン（リング状のバトン等）を用いる
			・低い障害物を走り越える運動遊びで、最後まで走り越えることが苦手な児童	・障害物を置く間隔や高さを変える
		イ 跳の運動遊び	・幅跳び遊びで、上手に跳ぶことができない児童	・足を置く位置の目印として輪を置き、リズムカルに跳ぶことのできる場を設定する
			・ケンパー跳び遊びで、上手に跳ぶことができない児童	・「グー」と「パー」が分かりやすい目印をレーン上に設定し、足を置く順番やリズムが分かるようにする
			・ゴム跳び遊びで、高く跳ぶことやしっかりジャンプをすることが苦手な児童	・高さを変えたり、跳ぶ時のリズムを決めたりする
	(2)			
	(3) 学びに向かう力、人間性等		・かけっこでの競走など、競走（争）を好まない児童	・いろいろな走り方や跳び方で勝敗を競わずに楽しめる場を設定したり、行い方を工夫したりする
			・最後までうまく走ったり跳んだりできないなど、達成感を味わうことが難しい児童	・易しい場や課題を複数準備する
			・友達同士でうまく関わり合うことができない児童	・見合いや教え合いなど、互いに関わり合いながら学習をするようにしたり、友達同士で学習の成果を認め合ったりする機会を設定する
・対人関係をうまく保つことができない児童			・児童の伸びや友達との関わり方を教師が積極的に称賛する	

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
D 水遊び	(1) 知識及び技能	ア 水の中を移動する運動遊び	・水かけっこで、顔に水がかかることが苦手な児童	・背中合わせになったり、友達との距離を広げたりするなど、遊び方を工夫する
			・まねっこ遊び（ワニ）で、水面に対して体を水平にした姿勢になり手だけで歩くことが苦手な児童	・より浅い場所で歩いたり、しゃがんだ姿勢でゆっくりと移動したりするなど、段階的な遊び方を工夫する
			・電車ごっこ、リレー遊び、鬼遊びで、水の抵抗や浮力の影響で歩いたり走ったりすることが苦手な児童	・友達の後ろに続いて移動したり、手で水を力強くかいたりすることを助言する
		イ もぐる・浮く運動遊び	・もぐる遊びで、水に顔をつけることが苦手な児童	・少しずつ顔に水がかかるようにシャワーを浴びたり、顎→口→鼻→目へと徐々に水につける部分を増やしたりする
			・もぐる遊びで、水の浮力を受け、輪をくぐるものが苦手な児童	・輪の深さや数を変えたり、二人組でつくった手のトンネルをくぐったりする
			・浮く遊びで、足が沈み、伏し浮きをすることが苦手な児童	・息を大きく吸って止めたり、顎を引いて頭を水の中につけたり、無駄な力を抜いて体を真っ直ぐにしたりすることを助言する
	・バブリングで、水中で息を吐くことが苦手な児童		・手の平にすくった水を吹き飛ばしたり、水面に浮いたものを吐いた息で移動させたりするなど、顔をつけずに息をまとめて強く吐くことのできる遊びをする	
		・ボビングで、動きと呼吸のリズムを合わせることが苦手な児童	・友達と手をつないで一緒にボビングをするなどの場を設定したり、「プクプクプク（弱く吐く）、プハ！（水面を出たら大きく強くまとめて吐く）、スー（すぐに吸う）」などの呼吸のリズムのイメージができる言葉を助言したりする	
	(2)			
	(3) 生活習慣		・水に対する恐怖心がある児童	・安全面からもペアでの学習（パディシステム）を取り入れ、友達と一緒に水遊びの楽しさに触れることができるようにしたり水慣れの時間を十分に確保したり、少しでもできたことを称賛したりする

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例	
D 水遊び	(3) 学びに向かう力、人間性等		<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に水遊びをすることを好まない児童 ・既に初歩的な泳ぎを身に付けている児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して一緒に取り組む水遊びを紹介したり、友達同士で互いの動きのよさを認め合う機会を設定したりする ・ワニ歩きで頭までつかりながら行うよう助言し、その動きのよさを全体に伝えたり、石拾いで石の数や色を指定して（連続して行うポビングの回数を指定して）児童にとってより適した課題を提示したりする 	
		E ゲーム	(1) 知識及び技能	ア ボールゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを捕ったり止めたりすることが苦手な児童 ・ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ることが苦手な児童 ・ボールの勢いに怖さを感じる児童
イ 鬼遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼になってなかなか捕まえない児童 ・鬼から逃げるのが苦手な児童 			<ul style="list-style-type: none"> ・短い時間で鬼を交代したり、逃げる場所を制限したり、逃げる場所を狭くしたりする ・安全地帯を設けたり、鬼の人数を一人から徐々に増やしたり、鬼でない児童の人数を増やしたりする 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・宝取り鬼で、相手の陣地から宝をとるのが苦手な児童 			<ul style="list-style-type: none"> ・宝を置く場所や宝の数を増やしたり、鬼の人数を一人から徐々に増やしたり、宝を取りやすいように陣地の形を変えたりする 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール運び鬼で、相手の陣地にボールを運ぶことが苦手な児童 			<ul style="list-style-type: none"> ・チーム内での役割が分かるようにしたり、攻めと守りが入り交じる場を制限したり、守りの人数を減らしたり、ボールを運ぶ側の人数を増やしたりする 	
(2)					
(3) 学びに向かう力、人間性等				<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを捕ることや用具を用いて打つことに対する恐怖心などでボールゲームに意欲的に取り組めない児童 ・ゲーム中に何をすればよいのかが分からないなどで、ボールゲームや鬼遊びに意欲的に取り組めない児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔らかいボールを用意したり、大きなボールやゆっくりとした速さになるボールを用意したりする ・行い方や課題を絵図で説明したり、活動内容を掲示したりする

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
E ゲーム	(3) 学びに向かう力、人間性等		・場や規則が難しいなどで、ボールゲームや鬼遊びに意欲的に取り組めない児童	・場の設定や規則を易くして児童が取り組みやすくする
			・新しく提示した動きやゲームが分からないなどでボールゲームや鬼遊びに意欲的に取り組めない児童	・動きをゆっくりと示したり、一緒にそのチームに入ってゲームをしたりする
			・ゲームに勝てなかったり、鬼に捕まりやすかったりするなどボールゲームや鬼遊びに意欲的に取り組めない児童	・勝敗を受け入れることが大切であることを話したり、安全地帯など場の設定を工夫したりする
			・友達とうまく関われないためにボールゲームや鬼遊びに意欲的に取り組めない児童	・対戦相手を変えたり、チーム編成を工夫したりする
F 表現リズム遊び	(1) 知識及び技能	ア 表現遊び	・題材の特徴を捉えて踊ることが苦手な児童	・ねじったり回ったり、跳んだり転がったりして全身の動きで特徴を捉えている友達の動きを見合い、真似をする
			・続けて踊ることが苦手な児童	・「大変だ！○○だ！」の複数の例示から選べるようにする
	イ リズム遊び ※ 「内容の取扱い」で示されているフォークダンスを含めて指導する場合は、その場ですぐ覚えて踊ることができる易しい踊りを取り上げ、スキップやランニングなどの簡単なステップで、音楽に合わせてみんなで踊ること	・リズムに乗って踊ることが苦手な児童	・友達や教師の動きの真似をしながら、リズムに合わせてスキップで弾んだり、かけ声や手拍子を入れたりして踊る	
		・友達と関わって踊ることが苦手な児童	・教師を含めた数人で手をつなぎ、簡単な動きで弾んだり、回ったり、移動したりして一緒に踊る	
	(2)			
(3) 芸術的な鑑賞			・題材から表したい様子や動きを思い浮かべることに意欲的に取り組めない児童	・単元の導入でその題材に関連する絵本や図鑑などを提示し、題材についての興味や関心を高める
			・リズムに乗って踊ることに意欲的に取り組めない児童	・その児童にとって身近で関心があり、自然に体を弾ませたくなるような選曲をする

(2)は思考力、判断力、表現力等

【 第3学年及び第4学年の内容 】

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例	
A 体づくり運動	(1) 知識及び技能	ア 体ほぐしの運動	・伸び伸びとした動作で運動をすることが苦手な児童	・低学年の体ほぐしの運動遊びで行った運動を繰り返し、なじみの深い簡単な運動を行ってみる	
			・心や体の変化に気付くことが苦手な児童	・気持ちや体の変化を表す言葉を示したり、問いかけたりし、自己の心や体の変化に合った言葉のイメージができるようにする	
			・友達と関わり合いながら運動をすることが苦手な児童	・ペアやグループの組み方を考慮し、安心して活動に取り組めるようにする	
		イ 多様な動きをつくる運動	(ア) 体のバランスをとる運動	・片足を軸にして回りながら移動する動きが苦手な児童	・片足で回ることを連続して行ったり、ケンケンパで半回転をしたりする
				・渡るなどの動きが苦手な児童	・平面に描いた細い通路や、新聞紙や段ボールなどで作った用具を用いて、広さや高さを易しくした場づくりをする
				・バランスを保つ動きが苦手な児童	・一定の距離をケンケンで進んだり、バランスをとりながら単独で立ったりするなど、易しい動きを示す
			(イ) 体を移動する運動	・這う、歩く、走るなどの動きが苦手な児童	・広い場所で前や後ろに移動したり、物や用具の間をゆっくりと移動したりするなど易しい条件で行うことができるようにする
				・いろいろな跳び方やはねる動きが苦手な児童	・できる動きやできそうなことを繰り返し行いながら、できる動きを徐々に増やせるようにする
				・登る、下りるなどの動きが苦手な児童	・肋木や登り棒等に目印を付け、段階的に挑戦していくことができるようにしたり、肋木や登り棒の足元にマットを敷くなどにより、下りやすい場づくりをしたりする
				・一定の速さで続けて走ることが苦手な児童	・リズムよくしっかりと息を吐きながら、続けることができる速さで行うことを個別に助言する

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例	
A 体づくり運動	(1) 知識及び技能	イ 多様な動きをつくる運動	(ウ) 用具を操作する運動	・用具をつかむ、転がす、投げるなどが苦手な児童	・用具の大きさや重さ、長さ、柔らかさなどを変えて動きを易くする
				・用具を捕ることが苦手な児童	・転がったり、弾んだりしたボールを捕るなど、易しい行い方にする
				・用具を跳ぶ動きが苦手な児童	・踵を上げて跳ぶことや手首の使い方がつかめるよう、用具を持たずにその場で跳んだり、弾みやすい場所で行ったりする
				・用具に乗るなどの動きが苦手な児童	・二人組や三人組で体を支えて補助をし合ったり、器具等につかまりながら進んだりする
		(エ)力試しの運動	・人を押す、引く動きが苦手な児童	・膝を曲げて腰を低くした構えで、安定した姿勢で行えるようにする	
			・人を運ぶ、支える動きが苦手な児童	・補助を受けながらゆっくりと動いたり、手のひらでしっかりと地面や床を押し付けたりして行うことができるようにする	
			(オ)基本的な動きを組み合わせる運動	・物を持ったりかっただりして、バランスをとりながら移動することが苦手な児童	・物を持たずに移動、または小さい物を持って移動するなどの簡単な動きから始めるようにする
				・回旋する長なわを跳びながらボールを操作することが苦手な児童	・止めた長なわを跳び越しながら操作したり、ボールを持ったまま回旋する長なわを跳んだりするなど、基本的な動きの習熟を図りながら組み合わせた動きに高めていけるようにする
		・ボールを投げ上げ、移動して捕ることが苦手な児童		・友達に投げ上げてもらったボールを移動して捕るなど、行い方を変える	
		・ペアになり、各々が立てたり回したりしたフープや棒をすばやく相手と場所を入れ替わって捕らえることが苦手な児童		・ペアとの距離を調整したり、易しいフープや棒を用いる	
(2)					

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
A 体づくり運動	(3) 学びに向かう力、人間性等		・運動の行い方が分からないために意欲的に取り組めない児童	・友達の様子を見ながら、その真似をして体を動かし徐々に運動に加わることができるようにする
			・友達と関わり合うことが苦手で運動に意欲的に取り組めない児童	・意欲的に取り組む児童とペアやグループを組み、友達の動きに刺激を受けて一緒に様々な運動に挑戦できるようにする
			・運動への興味や関心がもてず意欲的に取り組めない児童	・体を動かしたり、みんなで運動をしたりすることのよさを個別に語ったり、易しい運動の行い方や場の設定、BGM など環境の工夫をし、少しでも取り組もうとする行動を称賛したり、励ましたりする
B 器械運動	(1) 知識及び技能	ア マット運動	・前転が苦手な児童	・ゆりかごなどの体を揺らす運動遊びや、かえるの逆立ちなどの体を支える運動遊びに取り組んだり、傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりする
			・易しい場での開脚前転が苦手な児童	・足を曲がらないように太ももに力を入れたり、両足を勢いよく振り下ろしてマットに接地したりして、足の伸ばし方や回転の勢いをつける動きが身に付くようにする
			・後転が苦手な児童	・ゆりかごなどの体を揺らす運動遊びや、かえるの逆立ちなどの体を支える運動遊びに取り組んだり、傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりして、腰を上げたり、体を支えたり、回転の勢いをつけたりする動きが身に付くようにする
			・開脚後転が苦手な児童	・足を伸ばしたゆりかごで体を揺らしたり、かえるの逆立ちなどの体を支えたりする運動遊びに取り組んだり、傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりして、足を伸ばしたり、腰を上げたり、体を支えたり、回転の勢いをつけたりする動きが身に付くようにする
			・補助倒立ブリッジが苦手な児童	・壁登り逆立ちや背支持倒立（首倒立）などの逆さまで体を支える運動遊びに取り組んだり、ブリッジなどの体を反らす運動遊びに取り組んだりして、体を支えたり、逆さまで体を反らしたりする動きが身に付くようにする

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
B 器械運動	(1) 知識及び技能	ア マット運動	<ul style="list-style-type: none"> 側方倒立回転が苦手な児童 	<ul style="list-style-type: none"> 壁登り逆立ちや支持での川跳びなどの体を支えたり、逆さまになる運動遊びに取り組んだり、足を勢いよく振り上げるためにゴムなどを活用したり、補助を受けたりして、腰を伸ばした姿勢で回転できる動きが身に付くようにする
			<ul style="list-style-type: none"> 首はね起きが苦手な児童 	<ul style="list-style-type: none"> 壁登り逆立ちや背支持倒立（首倒立）などの逆さまで体を支える運動遊びや、ブリッジなどの体を反らす運動遊びに取り組んだり、腰を上げた仰向けの姿勢からはねてブリッジをしたり、段差を利用して起き上がりやすくしたりして、逆さまで体を支えて体を反らしたり、手でマットを押ししたり、反動を利用して起き上がる動きが身に付くようにする
			<ul style="list-style-type: none"> 壁倒立が苦手な児童 	<ul style="list-style-type: none"> 肋木や壁を活用した運動遊びに取り組んだり、足を勢いよく振り上げるためにゴムなどを活用したりして、体を逆さまにして支えたり、足を勢いよく振り上げたりする動きが身に付くようにする
			<ul style="list-style-type: none"> 頭倒立が苦手な児童 	<ul style="list-style-type: none"> かえるの逆立ちや背支持倒立（首倒立）などの逆さまで体を支える運動遊びに取り組んだり、肋木、壁を活用した運動遊びに取り組んだりして、体を逆さまにして支える動きが身に付くようにする
		イ 鉄棒運動	<ul style="list-style-type: none"> 前回り下りが苦手な児童 	<ul style="list-style-type: none"> ふとん干しなどの鉄棒に腹を掛けて揺れる運動遊びに取り組んだり、補助を受けて回転しやすくしたりして、勢いのつけ方や体を丸めて鉄棒から離さない動きが身に付くようにする
			<ul style="list-style-type: none"> かかえ込み前回りが苦手な児童 	<ul style="list-style-type: none"> ふとん干しの姿勢で揺れたり、ふとん干しの姿勢から足を抱えて揺れたりするなどの鉄棒に腹を掛けて揺れる運動遊びに取り組んだり、補助や補助具で回転しやすくしたりして、勢いのつけ方や体を丸めて鉄棒から離さない動きが身に付くようにする

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
B 器械運動	(1) 知識及び技能	イ 鉄棒運動	・ 膝掛け振り上がりが苦手な児童	・ 片膝を掛けて大きく振れるように、補助を受けて回転したり、鉄棒に補助具をつけて回転しやすいようにしたりして、振りの勢いを利用して起き上がる動きが身に付くようにする
			・ 前方片膝掛け回転が苦手な児童	・ 鉄棒上に片足を掛けて座ったり、鉄棒に片膝を掛けて揺れたりして、バランスをとって回転を開始する姿勢をつくったり、体を揺らしてから振りの動きを利用して回転したりする動きが身に付くようにする
			・ 補助逆上がりが苦手な児童	・ ダンゴムシや足抜き回り、ふとん干しから支持の姿勢を繰り返すなどの運動遊びに取り組み、体を鉄棒に引きつけたり、回転したり、腹支持から起き上がる動きが身に付くようにする
			・ かかえ込み後ろ回りが苦手な児童	・ ふとん干しの姿勢で揺れたり、ふとん干しの姿勢から足を抱えて揺れたりするなどの鉄棒に腹を掛けて揺れる運動遊びに取り組んだり、補助や補助具で回転しやすくしたりして、勢いのつけ方や体を丸めて鉄棒から離さない動きが身に付くようにする
			・ 後方片膝掛け回転が苦手な児童	・ ツバメの姿勢から鉄棒上に片足を掛けて座って反対側の足を振ったり、鉄棒に片膝を掛けて揺れたりして、バランスをとって回転を開始する姿勢をつくったり、体を揺らしてから振りの動きを利用して回転したりする動きが身に付くようにする
			・ 両膝掛け倒立下りが苦手な児童	・ こうもりで揺れたり、足抜き回りなどで鉄棒に足を掛けて逆さまでぶら下がったり、揺れたり、懸垂の姿勢から前後に回転したりする運動遊びに取り組み、逆さまで体を動かしたり、鉄棒に足を掛けたりする動きが身に付くようにする
		ウ 跳び箱運動	・ 開脚跳びが苦手な児童	・ マットを数枚重ねた上に跳び箱 1 段を置いて、手を着きやすくしたり、跳び越しやすくしたりして、踏切りー着手ー着地までの動きが身に付くようにする

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
B 器械運動	(1) 知識及び技能	ウ 跳び箱運動	・ 台上前転が苦手な児童	・ マットを数枚重ねた場で前転したり、マット上にテープなどで跳び箱と同じ幅にラインを引いて、速さのある前転をしたり、真っ直ぐ回転する前転をしたりして、腰を上げて回転する動きが身に付くようにする
			・ 首はね跳びが苦手な児童	・ マットを数枚重ねた場や低く設置した跳び箱、ステージなどを利用して体を反らせてブリッジをしたり、場でつくった段差と補助を利用して首はね起きを行ったりしながら、体を反らしてはねたり、手で押したりする動きが身に付くようにする
	(2)			
	(3) 学びに向かう力、人間性等		・ 技への恐怖心がある児童	・ 落ちてても痛くないようにマットを敷いたり、回転しやすいように鉄棒に補助具を付けたりして、場を工夫する
			・ 技への不安感がある児童	・ 必要な体の動かし方や運動感覚が身に付くように、低学年で学習した運動遊びに取り組む場を設定する
・ 技に繰り返し取り組もうとしない児童			・ 着地位置に目印を置いて自己評価をできるようにしたり、ゲーム化した運動遊びにグループで取り組めるようにしたりする	
		・ 友達とうまく関わって学習することができない児童	・ 手や足の位置に目印を置いたり、回数を数えたりする役割ができるようにする	
C 走・跳の運動	(1) 知識及び技能	ア かけっこ・リレー	・ かけっこで、スタートが苦手な児童	・ 立った姿勢からだけでなくいろいろな姿勢から素早く走ったり、スタート位置を変えて競走したりする
			・ 周回リレーで、タイミングよくバトンを受渡すことが苦手な児童	・ 追いかけて走やコーナー走で受渡しをする
		イ 小型ハードル走	・ 一定のリズムで小型ハードルを走り越えることが苦手な児童	・ インターバルの異なる複数のレーンを設定し選べるようにしたり、いろいろな材質の小型ハードル（ゴムを張った小型ハードルや段ボールを用いたハードル等）を使用したりする

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
C 走・跳の運動	(1) 知識及び技能	ウ 幅跳び	・踏切り足が定まらず、強く前方へ跳ぶことが苦手な児童	・3～5歩など、短い助走による幅跳びをしたり、「トン・トン・ト・ト・トン」など、一定のリズムの助走からの幅跳びを行ったりする場を設定する
		エ 高跳び	・踏切り足が定まらず、強く上方へ跳ぶことが苦手な児童	・3歩など、短い助走による高跳びをしたり、「トン・トン・ト・ト・トン」など、一定のリズムの助走からの高跳びを行ったりする場を設定する
	(2)			
	(3) 学びに向かう力、人間性等		・かけっこ・リレーでの競走など、競走（争）に対して意欲的に取り組めない児童	・いろいろな走り方・跳び方で活動する場を設定したり、勝敗のルールを工夫したりする
			・高跳びのスタンドやバーが当たることへの恐怖心がある児童	・友達が持つゴムひもを跳ぶようにする
・課題が易しすぎたり難しすぎたりして、うまく走ったり跳んだりできずに達成感を味わうことができない児童			・一つの間だけでなく、速さ、距離を変えるなど、易しい課題や複数の課題を設定する	
		・リレーのバトンの受渡しの練習の場面などで、友達同士でうまく関わり合うことができない児童	・互いに見合い、教え合いをする学習の仕組みや、振り返りの場面などで、友達同士で学習の成果を認め合うようにする	
D 水泳運動	(1) 知識及び技能	ア 浮いて進む運動	・け伸びで、体を一直線に伸ばすことが苦手な児童	・補助具や友達の手につかまり、大きく息を吸って伏し浮きの姿勢になるまで待つように助言したり、体を伸ばした状態になったところを友達に引っ張ってもらったりする
			・け伸びで、プールの底や壁を力強く蹴ることが苦手な児童	・水の中に体を十分に沈め、膝を曲げて体を小さく縮めてから底や壁を蹴るように助言したり、け伸びで進む距離を友達と競争したり自己の記録を伸ばしたりする場を設定したりする

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
D 水泳運動	(1) 知識及び技能	ア 浮いて進む運動	・ 初歩的な泳ぎで、手や足の動きと呼吸のタイミングを合わせることが苦手な児童	・ 陸上で動きのイメージができる言葉「伸びて、イーチ・ニー・サーン（手で水をかいたり、足を動かしたりして）、ブハ！（息をまとめて吐く）、伸びて」とともにタイミングを確認する場を設定したり、友達にゆっくりと引っ張ってもらいながら息継ぎのタイミングを声かけしてもらったりする
		イ もぐる・浮く運動	・ プールの底にタッチをする際、浮力の影響でもぐることが苦手な児童	・ 息を吐きながらもぐることや手や足を大きく使うことを助言したり、水深が浅い場を設定したりする
			・ いろいろなもぐり方をする際、もぐり方を変えることが苦手な児童	・ 友達ともぐり方の真似をし合う場を設定したり、陸上でできる動きを水の中でできないかを助言したりする
			・ だるま浮きで、体を小さく縮めることが苦手な児童	・ 両膝を抱え込まずに持つ程度にした簡単な方法に挑戦することや、膝を抱えると一度は沈むがゆっくりと浮いてくることを助言する
			・ 背浮きで、腰が沈まないようにして浮くことが苦手な児童	・ 補助具が体から離れないようにしっかり抱えて浮くように助言したり、友達に背中や腰を支えてもらう場を設定したりする
			・ 変身浮きで、浮き方を変えることが苦手な児童	・ 一つの浮き方で浮いている時間を延ばしたり、「つぼみがだんだん開いて、またしぼんでいく」などお話づくりで変身していくイメージをもって挑戦したりする場を設定する
			・ 連続したボビングが苦手な児童	・ 低学年で扱った呼吸のリズムを再度確認したり、友達と手をつないでボビングをしたりする場を設定する
	(2)			
	(3) 学びに向かう力、人間性等	・ 水に対する恐怖心や違和感を抱く児童	・ 低学年での水遊びを単元や授業の始めに取り入れたり、ゲーム的な要素のある運動をしたりする	
		・ 友達と練習することが苦手な児童	・ 自己の能力に適した距離や時間等の明確な目標をもって挑戦する場を設定し、その成果を友達と見合ったり、友達と課題と一緒に解決する活動を取り入れたりする	

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
D 水泳運動	(3) 学びに向かう力、人間性等		・既にクロールや平泳ぎができる児童	・け伸びの距離をより伸ばすことを助言したり、いろいろなもぐり方をする場面で腹や背中をプールの底に付けたり逆立ちや連続回転をしたりすることを助言したりするなど、挑戦する課題を提示する
E ゲーム	(1) 知識及び技能	ア ゴール型ゲーム	・パスを出したり、シュートをしたりすることが苦手な児童	・ボールを保持する条件を易しくするとともに、ボールを保持した際に周囲の状況が確認できるように言葉がけを工夫する
			・ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することが苦手な児童	・守る者の位置を見るように言葉がけを工夫する
		イ ネット型ゲーム	・いろいろな高さのボールを片手、両手もしくは用具を使ってはじいたり、打ちつけたりすることが苦手な児童	・飛んできたボールをキャッチして打つことを認める
			・ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることが苦手な児童	・プレイできるバウンド数を多くしたり、飛んできたボールをキャッチしてラリーを継続したりする
	ウ ベースボール型ゲーム	・ボールをフェアグラウンド内に蹴ったり打ったりすることが苦手な児童	・大きなボールや軽いボールを用いたり、手や大きなバット、軽いバット、ラケットなどを用いて打ったり、静止したボールを蹴ったり打ったりすることができるようにする	
		・投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げるのが苦手な児童	・的当てゲームを取り入れたり、紙鉄砲やタオルを用いて遊ぶ場を設定したりして、投げる動きが自然に身に付くような練習をする	
	(2)			
	(3) 学びに向かう力、人間性等		・ボールが固くて恐怖心を抱いたり、小さくて操作しにくかったりするために、ゲームに意欲的に取り組めない児童	・柔らかいボールを用意したり、大きなボールやゆっくりとした速さになる軽めのボールを用意したりする
・学習の仕方が分からないために、ゲームに意欲的に取り組めない児童			・学習への取組の手順を掲示物で確認できるようにする	

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
E ゲーム	(3) 学びに向かう力、人間性等		・場や規則が難しいと感じ、ゲームに意欲的に取り組めない児童	・文字やイラスト等を用いて掲示しながら説明したり、より易しい規則に変更したりする
			・新しく提示した動きが分からないために、ゲームや練習に意欲的に取り組めない児童	・よい動きの友達やチームを観察したり、掲示物などの具体物を用いて説明したりする
			・審判の判定に納得しなかったり、ゲームに勝てなかったりすることで、ゲームに意欲的に取り組めない児童	・判定に従うことやフェアなプレイの大切さについて、継続して伝えていくようにする
			・ゲームに参加している実感がなく、楽しさを味わえない児童	・チームの人数を少なくして、役割を明確にしたり触球回数を増やせるようにしたりする
			・友達と仲よくゲームに取り組めない児童	・試合の前後に相手や味方同士で挨拶や握手を交わしたり、相手や味方同士でよいプレイや取組を称賛したりする
F 表現運動	(1) 知識及び技能	ア 表現	・題材の特徴を捉えることが苦手な児童	・題材の多様な場面を絵や文字で描いたカードをめくりながら動く
			・動きの誇張や変化の付け方が苦手な児童	・動きに差を付けて誇張したり、急変する動きで変化を付けたりして踊っている友達の動きを見合い、真似をするようにする
			・ひと流れの動きにすることが苦手な児童	・気に入った様子を中心に、動きが急変する場面の例を複数挙げて動いてみる
	イ リズムダンス	・リズムの特徴を捉えて踊ることが苦手な児童	・リズムに合わせて手拍子をしたり、リズムを表す言葉がけをしながら踊ったりする	
		・動きに変化を付けて踊ることが苦手な児童	・曲のリズムに同調するだけでなく、動きやリズムに変化を付けた動きで踊っている友達の動きを見て、真似をするようにする	
		・友達と関わって踊ることが苦手な児童	・二人組で向かい合って手をつなぎ、スキップで弾んだり、回ったり、動きの真似をし合うようにしたりする	
(2)				

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
F 表現運動	(3) 学びに向かう力、 人間性等		・ 踊ることに意欲的に取り組めない児童	・ 授業の導入で、みんなで円形などになり、顔を見合わせながら軽快なリズムに乗って弾んだり手拍子をしたりして、心と体をほぐす
			・ 友達と関わりながら踊ることに意欲的に取り組めない児童	・ 友達と組んでできる簡単な動きを示した中から選べるようにする

【 第5学年及び第6学年の内容 】

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例		
A 体づくり運動	(1) 知識及び技能	ア 体ほぐしの運動	・心や体の変化に気付くことが苦手な児童	・二人組で気持ちや体の変化を話し合う場面をつくったり、運動を通して感じたことを確かめるような言葉がけをしたりする		
			・仲間と関わり合いながら運動をすることが苦手な児童	・協力や助け合いが必要になる運動を仕組み、仲間と共に運動をすることのよさが実感できるよう言葉がけをする		
		イ 体の動きを高める運動	(ア) 体の柔らかさを高めるための運動	・体の各部位を伸ばしたり曲げたり、その姿勢を維持したりすることが苦手な児童	・息を吐きながら脱力をし、ゆっくりと体を伸展できるような言葉がけをする	
				・一定の空間をくぐり抜けたり、前屈して用具を操作したりすることが苦手な児童	・空間を広げたり、十分な前屈ができなくても操作しやすい用具を用いたりする	
				(イ) 巧みな動きを高めるための運動	・人や物の動きに対応して動くことが苦手な児童	・動きをリードする児童が動作に合わせた言葉がけをしたり、ゆっくりとした動作をしたりする
					・用具を操作する運動が苦手な児童	・器具・用具や行い方を変えながら繰り返し行い、易しい動きから徐々に動きが高まっていくようにする ・用具を操作することが得意な児童が、苦手な児童に補助をしやすいよう、ペアやグループの編成の仕方を工夫する
				(ウ) 力強い動きを高めるための運動	・人を持ち上げる、運ぶなどの動きが苦手な児童	・負担の少ない役割を果たすことから始め、徐々に力強い動きに挑戦できるようにする
					・押し、寄りをういてすもうをすることが苦手な児童	・膝を曲げて腰を低くして構えることや、足裏全体を使って進むことなどの基本的な動きを意識したり、体格が同じ程度の相手と繰り返し行い、安心して活動ができるようにしたりする
		・全身に力を込めて登り棒につかまったり、肋木や雲梯にぶら下がったりすることが苦手な児童	・わずかずつでもできたことを取り上げて称賛したり、足が届く程度の高さで繰り返し行うようにしたりする			

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例	
A 体づくり運動	(1) 知識及び技能	イ 体の動きを高める運動 能力 ⁽¹⁾ を高めるための運動	・短なわや長なわを用いて跳び続けることが苦手な児童	・自分が得意な跳び方でいい、自分に合ったペースで一定時間連続したり、中断しながらでも延べ回数を増やしたりする	
			・一定の時間続けて走ることが苦手な児童	・自己のペースで無理のない速さで走り、段階的に課題を設定するよう助言したり、息をしっかりと吐くことや、腕をリズムよく振ることができやすくなるよう個別に言葉がけをしたりする	
			・一定の動きを繰り返しながら続けて行うことが苦手な児童	・リズムに合わせて動くことができるようBGMを利用したり、ペアやグループで一緒に動いたりすることができるようにする	
	(2)				
	(3) 学びに向かう力、人間性等			・仲間との身体接触を嫌がる児童	・バトンやひもなどの用具を用いて触れ合う運動を工夫する
				・仲間と共に活動することに意欲的に取り組めない児童	・仲間と一緒に運動をすると楽しさが増すことを体験できるようにしたり、気持ちも弾んで心の状態が軽やかになることを感じることができるよう言葉がけをしたりする
・自己の課題を見付けることに意欲的に取り組めない児童				・仲間の行い方を見て真似をしながら運動を行ったり、仲間に気付きを言ってもらったりし、徐々に自己の課題を見付けていくことができるようにする	
・課題の解決の仕方がわからないために運動に意欲的に取り組めない児童				・自己の課題を仲間に伝え、仲間からの助言を受けたり、同じような課題をもっている仲間の行い方の真似をしたりすることができるよう、ペアやグループの編成の仕方を工夫する	
・達成感をもてないために運動に意欲的に取り組めない児童				・運動の記録をとるようにしたり、わずかな変化を見付けて称賛したりしながら、自己の体の動きが高まっていることに気付くことができるようにする	

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
B 器械運動	(1) 知識及び技能	ア マット運動	・ 開脚前転が苦手な児童	・ 前転の起き上がる速さをつけたり、傾斜を利用したりして、勢いをつけて回転する動きが身に付くようにする
			・ 補助倒立前転が苦手な児童	・ 壁倒立をしたり、跳び箱や台などの上に足を置き、逆さの姿勢からの前転を行ったり、壁登り逆立ちから補助を受けながら前転したりして、倒立の姿勢からの前転を行う動きが身に付くようにする
			・ 伸膝後転が苦手な児童	・ 足を伸ばしたゆりかごで体を揺らしたり、傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりして、腰を上げたり、足を伸ばして回転の勢いを付けたりする動きが身に付くようにする
			・ 倒立ブリッジが苦手な児童	・ 壁登り逆立ちや壁倒立、ブリッジなどの逆さまで体を支える運動遊びや、体を反らす運動遊びに取り組んだりして、倒立したり、体を反らす動きが身に付くようにする
			・ ロンダートが苦手な児童	・ 手や足を着く場所が分かるように目印を置くなどして練習したり、側方倒立回転で足を勢いよく振り上げたりして、腰を伸ばした姿勢で体をひねる動きが身に付くようにする
			・ 頭はね起きが苦手な児童	・ 頭倒立や壁倒立などをしたり、首はね起きや頭倒立からブリッジなどに取り組んだり、また段差を利用して起き上がりやすくしたりして、逆さまで体を支え、体を反らし反動を利用して起き上がる動きが身に付くようにする
			・ 補助倒立が苦手な児童	・ 壁登り逆立ちや壁倒立などをして、体を逆さまにして支えたり、足を振り上げたりする動きが身に付くようにする
		イ 鉄棒運動	・ 前方支持回転が苦手な児童	・ ツバメの姿勢からふとん干しを繰り返したり、補助や補助具で回転しやすくしたりして、勢いのつけ方や体を丸めて鉄棒から離さない動きが身に付くようにする

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
B 器械運動	(1) 知識及び技能	イ 鉄棒運動	・片足踏み越し下りが苦手な児童	・ツバメの姿勢から鉄棒上に片足を掛けて座ったり、ツバメの姿勢で鉄棒上を横に移動したり、片手ずつ順手から逆手、逆手から順手に握りかえるなどの運動に取り組んだりして、バランスをとって鉄棒上で体を操作するための動きが身に付くようにする
			・膝掛け上がりが苦手な児童	・両手でぶら下がって体を前後に揺らしたり、片膝を掛けて大きく揺らしたり、足抜き回りなどの運動遊びに取り組んだり、補助を受けて回転したり、鉄棒に補助具をつけて回転しやすいようにしたりして、片膝を掛け振りの勢いを利用して上がる動きが身に付くようにする
			・前方もも掛け回転が苦手な児童	・ツバメの姿勢から鉄棒上に片足を掛けて座ったり、鉄棒に片膝を掛けて揺れたりするなど、バランスをとって回転を開始する姿勢をつくったり、体を揺らしてから振りの動きを利用して回転したりする動きが身に付くようにする
			・逆上がりが苦手な児童	・体を鉄棒に引きつける運動に取り組んだり、補助や補助具を利用して足を振り上げながら後方回転をしたりして、体を上昇させながら鉄棒に引きつけ回転する動きが身に付くようにする
			・後方支持回転が苦手な児童	・ツバメの姿勢で足を前後に振って体を曲げたり、補助や補助具で回転しやすくしたりして、勢いのつけ方や体を丸めて回転する動きが身に付くようにする
			・後方もも掛け回転が苦手な児童	・ツバメの姿勢から鉄棒上に片足を掛けて座ったり、片足を鉄棒から離したりしながら反対側の足を振ったり、また鉄棒に片膝を掛けて揺れたりするなど、バランスをとって回転を開始する姿勢をつくったり、体を揺らしてから振りの動きを利用して回転したりする動きが身に付くようにする

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
B 器械運動	(1) 知識 及び 技能	イ 鉄棒運動	・両膝掛け振動下りが苦手な児童	・両膝を掛けて体を揺らしたり、前を見て両膝を外したりする動きが身に付くように、こうもりで腕や頭を使って体を前後に揺らして前を見たり、二人の補助者と手をつないで体を前後に軽く揺らしながら前を見たりする運動に取り組めるようにする
		ウ 跳び箱運動	・かかえ込み跳びが苦手な児童	・マットを数枚重ねた場を設置して、手を着きやすくしたり、跳び越しやすくしたり、体育館のステージに向かって跳び乗ったりして、跳び越しやすい場で踏切りー着手ー着地までの動きが身に付くようにする
			・伸膝台上前転が苦手な児童	・マットを数枚重ねた場や低く設置した跳び箱で腰を上げたり、速さのある前転をしたりして、膝を伸ばして回転する動きが身に付くようにする
			・頭はね跳びが苦手な児童	・マットを数枚重ねた場や低く設置した跳び箱、ステージを利用して体を反らせてブリッジをしたり、場につくった段差と補助を利用して頭はね起きを行ったりしながら、体を反らしてはねたり、手で押したりする動きが身に付くようにする
	(2)			
	(3) 学び に向かう 力、 人間性 等	・痛みへの不安感や技への恐怖心をもつ児童	・ぶつかったり、落ちたりしても痛くないように、器械・器具の横や下などにマットを敷いたり、補助者を付けたりする場を設定する	
		・技に対する苦手意識が強い児童	・必要な体の動かし方や運動感覚が身に付くように、取り組む技と類似した動き方をする運動遊びに取り組む時間や場を設定する	
		・仲間とうまく関わって学習を進めることが難しい児童	・技を観察するポイントや位置を示し、気付いたことなどを仲間に伝える時間や場を設定する	
		・既に基本的な技を安定して行えるようになった児童	・発展技に挑戦したり、できる技を組み合わせたりして、新たな課題に取り組むことができる時間や場を設定する	

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
C 陸上運動	(1) 知識及び技能	ア 短距離走・リレー	・短距離走で、素早いスタートが苦手な児童	・構えた際に前に置いた足に重心をかけ、低い姿勢で構えるといったポイントを示す
			・リレーで、減速せずにバトンの受渡しをすることが苦手な児童	・「ハイ」の声をしっかりかけたり、バトンを受ける手の位置や高さを確かめたり、仲間同士でスタートマークの位置を確かめたりする
		イ ハードル走	・走り越える時に体のバランスを取ることが苦手な児童	・1歩ハードル走や短いインターバルでの3歩ハードル走で、体を大きく素早く動かしながら走り越える場を設定する
			・一定の歩数でハードルを走り越えることが苦手な児童	・3歩または5歩で走り越えることができるインターバルを選んでいるかを仲間と確かめたり、インターバル走のリズムを意識できるレーン（レーン上に輪を置く等）を設けたりする
		ウ 走り幅跳び	・リズムカルな助走から踏み切ることが苦手な児童	・5～7歩程度の助走からの走り幅跳びや跳び箱などの台から踏み切る場などで、力強く踏み切って体が浮くことを経験できるようにしたり、「トン・トン・ト・ト・トン」など、一定のリズムを声に出しながら踏み切る場を設定したりする
	エ 走り高跳び	・リズムカルな助走から踏み切ることが苦手な児童	・3～5歩程度の短い助走での走り高跳びや跳び箱などの台から踏み切る場などで、力強く踏み切って体が浮くことを経験できるようにしたり、「トン・トン・ト・ト・トン」など、一定のリズムを声に出しながら踏み切る場を設定したりする	
	(2)			
	(3) 学びに向かう力、人間性等		・リレーに意欲的に取り組めない児童	・チーム内で一人一人の走る距離を変えたり、勝敗を競うのではなく目標記録に近づくことを課題としたリレーを行ったりする
			・ハードルにぶつかることへの恐怖心がある児童	・ハードルの板をゴムや新聞紙を折りたたんだものやスポンジ製のものに変える
			・ハードルのインターバルの歩数がうまく合わないために、自己の課題に意欲的に取り組めない児童	・インターバルの歩数を決めてから場を選ぶなど、自己の能力に適した練習の場や課題の選択ができるようにしたり、同じような課題をもつ仲間と協力して練習できるようにしたりする

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
C 陸上運動	(3) 差に向かう人 間性等		・リレーの作戦について考える場面や走り高跳びのグループ競争の仕方を決める場面などで、自己の意見をうまく伝えられなかったり、仲間とうまく関わるできない児童	・話し合いや振り返りの際に、学習カードを用いて仲間同士で新たな課題を出し合ったり、学習の成果を確認したりする
D 水泳運動	(1) 知識及び技能	ア クロール	・前方に伸ばした手が下がり、手のかきに呼吸を合わせることが苦手な児童	・両手を必ず前方で揃えてから片手ずつかくための練習をする場や、仲間に手を引っ張ってもらいより前方に手を伸ばす練習をする場を設定したり、補助具をおさえる手に力を入れすぎないように助言したりする
			・頭が前方に上がり、横向きの息継ぎが苦手な児童	・歩きながら息継ぎの練習をする場を設定したり、へそを見るようにして顎を引き、耳まで浸かって息継ぎをするように助言したりする
			・手や足をゆっくりと動かすことが苦手な児童	・一定の距離を少ないストローク数で泳ぐ場や、決められたストローク数で泳ぐ距離を仲間と競い合う場を設定する
		イ 平泳ぎ	・かえる足の動きが苦手な児童	・プールサイドに腰かけて足の内側で水を挟む動きだけを練習したり、壁や補助具につかまって仲間に足を支えてもらい練習したりする場を設定する
			・手や足の動きと呼吸のタイミングを合わせることが苦手な児童	・陸上で動きの確認をする場を設定したり、水中を歩きながら仲間が息継ぎのタイミングを助言したりする
			・キックの後にすぐ手をかいてしまい、伸びることが苦手な児童	・け伸びをしてから「かいて、蹴る」動きを繰り返すことを仲間と確かめ合ったり、「かいて、蹴って、伸びる」の一連の動作をしたら一度立つように 助言し、少ないストローク数で泳ぐ距離を伸ばす場を設定したりする

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
D 水泳運動	(1) 知識及び技能	ウ 安全確保につながる運動	・背浮きの姿勢での呼吸を続けることが苦手な児童	・浅い場所で踵を付けたまま背浮きになる姿勢の練習をしたり、補助具を胸に抱えたり、仲間に頭や腰を支えてもらったりして続けて浮く練習をしたりする
			・浮き沈みの動きに合わせた呼吸をすることが苦手な児童	・体が自然に浮いてくるまで待ってから息継ぎをすることや、頭を大きく上げるのではなく首をゆっくりと動かし呼吸することを助言する
	(2)			
	(3) 学びに向かう力、人間性等	・水に対する恐怖心や違和感を抱く児童	・安全面からもペアでの学習（バディ システム）を取り入れ、友達と一緒に水遊びの楽しさに触れることができるようにしたり、水慣れの時間を十分に確保したり、少しでもできたことを称賛したりする	
・仲間とうまく関わりながら学習を進めることが苦手な児童		・ペアやグループ編成を工夫したり、その児童の伸びや仲間との関わり成果を仲間同士で積極的に認める場を設定したり、仲間と一緒に達成する課題を設定したりする		
・クロールや平泳ぎが50m以上泳ぐことができる児童		・設定した距離をより少ないストローク数で泳ぐことに挑戦する場を設定したり、いろいろな泳ぎ方で競うリレーを取り入れたりする		
E ボール運動	(1) 知識及び技能	ア ゴール型	・得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをすることが苦手な児童	・シュートが入りやすい場所に目印を付けたり、ボールを保持した際に最初にゴールを見ることを助言したりする
			・ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることが苦手な児童	・仲間がゴールの位置を教えるようにする
		イ ネット型	・片手、両手もしくは用具を使って、相手コートにボールを打ち返すことが苦手な児童	・飛んできたボールを短時間保持することを認めたり、うまくはじくことができる児童と比較してどこが違うか考えたりする場を設定する
			・自陣のコート（中央付近）から相手コートに向けサービスを打ち入れることが苦手な児童	・手を使って投げ入れたり、軽い用具や柄の短い用具を用いたり、軽いボールを用いたり、一歩前からサービスをすることを認めたり、ネットの高さを低くしたりする

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
E ボール運動	(1) 知識及び技能	イ ネット型	・味方が受けやすいようにボールをつなぐことが苦手な児童	・飛んできたボールをキャッチしてパスしたりすることができるようにする
		ウ ベースボール型	・打球方向に移動し、捕球することが苦手な児童	・ゆっくりと投げられたボールを移動して手に当てる練習を工夫したり、柔らかいボールを素手で捕る練習を工夫したりする
			・守備の隊形をとって得点を与えないようにすることが苦手な児童	・チーム練習の中で守備位置やその役割を確認したり、互いに言葉がけをしたりする
	(2)			
	(3) 学びに向かう力、人間性等		・味方や相手が投げるボールに恐怖心を抱くためにゲームに意欲的に取り組めない児童	・柔らかいボールを用意したり、大きなボールやゆっくりとした速さになるボールを用意したりする
			・チームの中で何をすればよいか分からないためにゲームに意欲的に取り組めない児童	・チーム内で分担する役割を確認する
			・場やルールが難しいためにゲームに意欲的に取り組めない児童	・場の設定やルールをチームで一つずつ確認する
			・新しく提示した動きが分からないためにゲームに意欲的に取り組めない児童	・代表の児童やチームが行う見本を観察したり、ゲーム中のポジションを確認したり、その動きを動画で確認したりする
			・技能が高いにもかかわらずゲームに意欲的に取り組めない児童	・リーダーとしてチームをまとめるようにしたり、仲間に動きのアドバイスをする役割を担うようにしたりする
			・ゲームに負け続けるためにゲームや練習に意欲的に取り組めない児童	・チームに合った作戦を選び直したり、新たな作戦を試したりすることを促す
・チーム内で仲間とうまく関わるできないためにゲームに意欲的に取り組めない児童			・チーム内の役割を明確にしたり、その役割に取り組むように助言したりする	
・仲間と仲よく助け合ってゲームに取り組めない児童			・役割を果たしたこと、最後まで全力でプレイしたこと、味方を励ます言葉がけがあったことなどの取組を、授業のまとめで取り上げて称賛したり、児童が相互に称え合ったりする	

(2)は思考力、判断力、表現力等

領域	目標	内 容	児童の困難さ	具体的な配慮の例
F 表現運動	(1) 知識及び技能	ア 表現	・題材の特徴を捉えることが苦手な児童	・二人から四人組などで、題材の特徴的な様子や動きを出し合いながら踊ってみる
			・ひと流れの動きにすることが苦手な児童	・表したい感じやイメージから捉えた変化とメリハリ（緩急・強弱）のある動きを、教師や仲間のリードで幾つか一緒に踊ってみる
			・簡単なひとまとまりの動きにすることが難しい児童	・一番表したい感じやイメージを明確にするとともに、できたところまでを通して踊ってみながら、表したい感じにふさわしい「はじめーなかーおわり」の構成になっているか教師や他のグループに見てもらう
		イ フォークダンス (日本の民謡ようを含む)	・踊ることが苦手な児童	・低学年で既習した簡単な踊りや、前時に学習した踊りを授業の導入で行う
			・踊りの特徴を捉えて踊ることが苦手な児童	・踊りの由来や背景を伝えたり、映像を見て踊りのイメージを捉えたりする
			・踊り方を身に付けることが苦手な児童	・教師が曲を口ずさみながら 全体を大まかに通して踊り、難しいところは部分練習をする
	(2)			
	(3) 学びに向かう力、人間性等	・仲間の前で表現やフォークダンスを行うことに意欲的に取り組めない児童	・授業の導入で、中学年のリズムダンスで学習したへそ（体幹部）を中心に軽快なリズムに乗って踊る活動を取り入れ、心と体をほぐす	
		・表したい感じやイメージを表現することに意欲的に取り組めない児童	・取り上げる題材を、クラス共通の題材だけでなく、個人やグループの関心や能力の違いに応じて選ぶようにする	
		・日本の民謡や外国のフォークダンスを踊ることに意欲的に取り組めない児童	・身近な郷土の民謡や外国のフォークダンスの映像を見せて興味・関心をもてるようにしたり、踊りに必要な簡単な小道具や衣装を着けて踊りの雰囲気を高めたりする	

(2)は思考力、判断力、表現力等

<引用、参考文献>

- ・インクルーシブ教育データバンク（2017）、『つまり、「合理的配慮」って、こういうこと』、現代書館
- ・岩手県立総合教育センター（2020）、『特別支援教育指導資料 特別支援学級経営の手引き（令和2年度版）』
- ・岩手大学教育学部特別支援教育科（2020）、『通常の学級における教科指導－“みんな”と“この子”の両方に配慮する授業づくりー』
- ・公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団（2020）、『2019年度障がい者スポーツを取り巻く社会環境に関する調査研究』
- ・後藤邦夫（2001）、『バリアフリーをめざす体育授業』杏林書院
- ・清水由（2019）、『体育授業のユニバーサルデザイン』、東洋館出版社
- ・高橋あつ子（2007）、『一から始める特別支援教育「校内研修」ハンドブック』、明治図書
- ・田中和代・岩佐亜紀（2008）、『高機能自閉症・アスペルガー障害・ADHD・LDの子のSSTの進め方』、黎明書房
- ・千葉県視覚障がい教育ネットワーク推進連絡協議（2020）、『「見えにくさ」のある子どもの学びを支えるハンドブック 見え方のQ&A（令和2年度版）』
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2020）、『特別支援教育の基礎・基本2020』、ジアース教育新社
- ・根本政雄【編】、小野隆行【指導】（2017）、『発達障害児を救う体育指導』、学芸みらい社
- ・藤田紀昭・齊藤まゆみ（2017）、『これからのインクルーシブ体育・スポーツ』、ぎょうせい
- ・文部科学省（2018）、『小学校学習指導要領解説 体育編』、東洋館出版社
- ・文部科学省（2019）、『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』、東洋館出版社